

2013 年度

インターンシップ・プログラム

実施報告書

2014 年 3 月



公益
財団
法人

大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

ごあいさつ

2013年度インターンシップ・プログラムの実施にあたり、36名のコーディネーター及び事務局が運営にあたらせていただきました。ご協力を賜りました企業・団体や大学、その他関係者の方々に厚くお礼申し上げます。以下、総合コーディネーター3名よりごあいさついたします。

プログレスコース 総合コーディネーター
山本 建太郎
京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究科 教授



プログレスコースでは学生がプロジェクトに参画し実行していくわけですが、計画を立てることや決められた時間内に実行していくということが案外苦手です。それはこれまで学んできた知識や技術をどのように生かしていけば良いのか、アウトプットの仕方を学べてないからだと思います。

インターンシップは、どのようにすれば自分の力が社会に伝わるかを考えさせられ、今後の学習のモチベーションを高めてくれるものだと改めて思い知らされます。貴重な社会経験とご指導をいただきありがとうございました。

ビジネスコース 総合コーディネーター
多田 実
同志社大学 政策学部 教授



今年度も多くの受入先様からのご協力を賜り、無事、すべてのプログラムを終えることができました。厚く御礼申し上げます。類似のインターンシップが増えた昨今、学部や大学の枠を超えて志の高い学生が集まり、ゼミ形式で事前と事後の学習を行う本プログラムでは、他では見られない「化学反応」が常に起こると自負しております。「デファクトスタンダード」としての良さは継承しつつ、さらなる充実を図るため、より専門性が要求されるプログラムの追加も検討中です。今後の進展にご期待ください。

パブリックコース 総合コーディネーター
古川 秀夫
龍谷大学 国際文化学部 教授



パブリックコースでは、行政や非営利の組織での実習を中心として、善き職業人というだけにとどまらず、地域社会、日本社会、ひいては地球社会の一員として備えるべき市民性の獲得をめざしています。その結果、修了生において、仕事、家庭、ボランティアや余暇など3つの領域におけるワーク・ライフバランスのとれた人生を展望、実現する努力を惜しまない態度が養われたように思います。コーディネーターとして、学生たちのそのような学びの過程に寄り添い、成長のようすを眺められたのは、大きな喜びです。

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業の変遷

公益財団法人 大学コンソーシアム京都(以下「本財団」)が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム(以下「プログラム」)は、1997年に当時の通商産業省・文部省・労働省が合同で「インターンシップ推進にあたっての基本的な考え方」を取りまとめたことと並行して、本財団に「インターンシップ制度研究会」を発足させたことにはじまる。この研究会における検討の結果、インターンシップは「来るべき新時代に向けての産官学地域等が協働で構築する新たな人材育成を目的とする社会的制度であり、高等教育改革に資するプログラム」であるとして翌1998年度より本格的に始動した。

本プログラムは、開始から一貫して正規の大学教育の一環として明確に位置づけ、産官学地域連携による教育プログラムとして実施してきた。実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的として、単なる就職のためのインターンシップではないことを強調している。これらの目的遂行のため、事務局ではコーディネーターと事務局の協力による事業推進、受入れ先への訪問や意見交換会の実施、修了生や受入れ先担当者のゲストスピーカーとしての招聘、ニーズと情勢に応じたプログラムの改変、マッチングや事務処理の効率化のための事務システム導入などに努めてきた。これまでに京都地域にある大学・短期大学(以下「大学」)のすべての学生が参加できるというスケールメリットを活かして、延べ4,400を超える企業や行政機関、非営利組織などの協力のもと、約7,700名の学生が参加し、受入れ先や大学、受講生、指導するコーディネーターなどの意見を反映しながら、毎年検討を積み重ねてプログラムの改善を図っている。

また、2005年度には、大学共同の取り組みとして、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に選定されるなど、社会的にも教育プログラムとして高い評価を得ることができた。

本プログラムの開始以降、インターンシップは全国の多くの大学で独自の取り組みが行われ、文部科学省の調査¹⁾では、インターンシップを実施している大学は、1996年度に17.7%であったが、2007年度には67.7%となり500以上の大学で展開されている。また、京都地域の大学においても、その約6割で独自のインターンシップ事業を実施している。このようにインターンシップは、すでに普及・啓発の時期から定着の時期も過ぎ、一般名詞化しており、今後のインターンシップのあり方についての検討が必要となっている。そこで、プログラム開始10周年を迎えた2007年度より「インターンシップ研究会」を設置し、これまでのプログラムの到達点について総括を行うとともに、教育プログラムとしての今後の長期的な方向性について検討を行った。2008年度は特色GPの最終年度にあたり、研究成果のまとめとして報告書を作成したほか、事業開設10年を節目に行った受入れ先へのヒアリングや修了生等への調査結果の分析を進め、今後の展開についての提言書(インターンシップ研究会報告書)を取りまとめた。

2009年度以降は上記の結果などを踏まえながら、意欲ある学生がプログラムに参加でき、これまでどおり高い満足度を維持するため、産官学地域における連携をより密にするとともに、本プログラムが受講生だけでなく、受入れ先にとってもより意義のある取組となるよう、プログラムを推進している。

出典

¹⁾文部科学省HP 大学等におけるインターンシップ実施状況調査(承認統計)

http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/intern/1260927.htm

目 次

第 1 章	2013 年度インターンシップ・プログラムの実施内容と今後の課題	
Ⅰ.	プログラムの概要と実績	・ ・ ・ ・ ・ 1
Ⅱ.	各コースの紹介	・ ・ ・ ・ ・ 6
Ⅲ.	受入れ先及び受講生アンケートの結果から	・ ・ ・ ・ ・ 7
Ⅳ.	今後の課題	・ ・ ・ ・ ・ 8
第 2 章	受入れ先アンケート	
Ⅰ.	受入れ先アンケート用紙	・ ・ ・ ・ ・ 9
Ⅱ.	受入れ先アンケート結果	・ ・ ・ ・ ・ 10
Ⅲ.	受入れ先アンケート自由記述（抜粋）	・ ・ ・ ・ ・ 14
第 3 章	受講生アンケート	
Ⅰ.	受講生アンケート用紙	・ ・ ・ ・ ・ 17
Ⅱ.	受講生アンケート結果	・ ・ ・ ・ ・ 19
Ⅲ.	受講生アンケート自由記述（抜粋）	・ ・ ・ ・ ・ 26
第 4 章	受講生意識調査集計結果	・ ・ ・ ・ ・ 33
資料編		・ ・ ・ ・ ・ 38

第1章 2013年度インターンシップ・プログラムの実施内容と今後の課題

I. プログラムの概要と実績

1. プログラムの特徴

本財団が窓口となって実施するインターンシップ・プログラムは、就職活動としてのインターンシップではなく、コーオペ教育(Cooperative Education)、つまり産官学地域連携による人材育成プログラムを、正規の大学教育の一環として明確に位置付け、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムである。

(1) 産官学地域協働によるプログラムの充実・発展

実習にあたっては、一般企業等や行政機関、NPO・NGO等の非営利組織など、さまざまな分野の企業・団体^(資料7参照)において、受講生を受け入れていただいている。また、実習内容についても営業、総務、企画、製造、広報、研究開発など多岐にわたっており、それらが包括的に運営される総合的なプログラムとなっている。

(2) 京都地域にある50の大学が参加

現在、本財団には50の国公立大学・短期大学(以下「加盟大学」)が加盟^(資料9参照)しているが、受講生にとっては、このプログラムへの参加を通して、いろいろな価値観を持った他大学生と交流を図ることができるため、総合的な人間力を形成できる良い機会となっている。また、受入れ先にとっても、さまざまな大学・学部から学生を受け入れることが大きなメリットの一つとなっている。

(3) 大学教員によるコーディネート

プログラムの開始当初より、加盟大学の大学教員がコーディネーターとして受講生の指導を行っている。

ビジネス・パブリックコースにおいては、一貫して同じコーディネーターが、事前学習・事後学習におけるゼミクラスの運営、実習期間中の中間指導、成績評価を担当している。

また、プログレスコースにおいては、プロジェクト実施に向けたプロジェクト・マネジメント講義を担い、プロジェクト実行におけるファシリテーター役を務め、受講生と受入れ先の綿密なコミュニケーションの確立をコーディネートしている。

さらに、全コースの総合およびチーフコーディネーターについては、インターンシップ研究会の構成員として、プログラムの策定を担った。

(4) インターンシップ研究会におけるプログラムの検討

2007年度、プログラム10周年という節目を契機として、それまでのプログラムの到達点を振り返り、教育プログラムとして今後の長期的な方向性について組織的に検討する「インターンシップ研究会」を設置した。2008年度には、①10年間のプログラムの到達点の整理として「今後の展開についての提言書」を策定、②本財団における今後のインターンシップの方向性について議論を行い、「今後の展開についての提言書—インターンシップ研究会報告書—」を刊行した。以降、出願者数の調査・分析から出願者増加に向けた対策の検討や、長期的展望をもとにした具体的な教務企画の検討を重ねてきた。特に、2011年度には、インターンシップの魅力を知ってもらうことをねらいとして、本財団が受入れ先となり、プログレスコースのプロジェクトとして『インターンシップ・ハンドブック』の発行に取り組み、2012年度には、『インターンシップ・ハンドブック』を加盟大学へ配布した。

2013年度は、引き続き、長期的な展望を基にした具体的な教務企画の検討を行い、特に以下のように2014年度に向けた検討を行った。(資料8参照)

<教育プログラムとしての充実・発展>

- 本財団次期中期計画となる「第4ステージプラン」策定に関わる加盟大学に対するヒアリング結果の検証
- 本財団インターンシップ・プログラムの受講に対し、各大学・短期大学において単位認定する仕組みの整備について
- 出願者増に向けた取り組みについて
- 出願・面接日における面接方法の改善
- 受入れ先の実習内容について、特に国際性・専門性をキーワードに検証
- 2014年度シラバスの策定

<プログラム運営上の課題>

- 「修了生」の定義づけと「修了証」の改訂、評価基準について
- 授業欠席者への対応策の検討
- コーディネーターの学生対応について
- 学生によるWebエントリーの検討
- 事前学習における改善(事前訪問チェックリスト作成、レポート作成の手引き作成)
- 2013年9月13日に経団連が発表した「採用選考に関する指針」の影響による、現行のインターンシップ生受入れ期間の見直しについて

2. プログラムの概要

(1) コースの設定

長期プロジェクト型 プロGRESSコース・・・6月～11月に受入れ先が提示したテーマに沿ってプロジェクト型のインターンシップを行う

短期実践型(夏期) ビジネスコース・・・企業において8月中旬～9月中旬の間に2週間～1ヶ月程度の実習を行う

パブリックコース・・・行政機関や非営利組織(NPO・NGO等)において8月中旬～9月中旬の間に2週間～1ヶ月程度の実習を行う

(2) 受講料

選考の結果、受講生から受講料を徴収した。

- ①ビジネス・パブリックコース 10,000円(加盟大学以外の学生は15,000円)
- ②PROGRESSコース 15,000円(加盟大学以外の学生は20,000円)

内訳:各種保険料・施設使用料・その他、講座運営にかかる諸費用

(3) 学生の募集

学生募集にあたっては、本財団の加盟大学や、加盟大学以外の大学においても要望により募集ガイドやポスターを配布し、主にキャリア支援担当者を中心に学生へ呼びかけていただいた。

また、本財団所在地であるキャンパスプラザ京都における説明会において、直接、学生へ参加を呼びかけた。説明会においては、学生から積極的に質問が出され、関心の高さがうかがえた。

●インターンシップ・プログラム事前説明会

4月13日(土)18:00~19:30

参加学生 173名



●プログレスコース説明会・相談会

4月18日(木)18:15~21:00

参加学生 29名



(4) 出願受付と面接

本財団の加盟大学の正規学生および大学院生であれば、学部・学年を問わず出願を可能とした。また、加盟大学の学生が優先されることを出願者が了承した場合に限り、非加盟大学の学生の出願も受け付けた。出願・面接日を2日間設定し、所定時間内に出願手続きを受け付けた学生全員に対して面接を行った。

出願票の受け付け時には、本財団事務局が出願者に対して、出願票に記入している志望受入れ先が提示している受入要件等の確認を行い、必要に応じて、ヒアリングを通して出願者の志望動機にあう志望受入れ先についてアドバイスをを行った。そのうえで、出願者に対して行う面接においては、実習を最後までやり遂げ、向上心があるかを確認する目的をもって質問項目を設け、出願者の志望動機を確認した。



●出願・面接日(会場:キャンパスプラザ京都)

5月10日(金) 16:30~19:00

5月11日(土) 14:00~19:00

(5) 出願者数と受講者数

2013年度の出願者数は627名(2012年度676名(7%減))、と2012年度より減少したが、受講者数は456名(2012年度422名(8%増))、と増加した。(資料1・2参照)

(6) 選考・マッチング

出願者に対して、ビジネスコース、パブリックコースは、受入れ先が選考を行う場合と、本財団が選考を行う場合の2種類を設定した。受入れ先が選考を行う場合は、受入れ先による面接や個別に課題を設けたレポート等による選考などが実施された。なお、2013年度の出願先のうち、受入れ先選考をした受入れ先は72件、本財団による選考をした受入れ先は173件であった。

プログレスコースについては、長期にわたるプロジェクト型の実習である性格を勘案し、すべて受入れ先による選考とした。また、プログレスコースについては、複数名によるプロジェクト推進体制を確保し、チームでの共同を通じた教育効果の向上を図っているが、2013年度については、受入れ先および学生本人の同意を得たうえで、1プロジェクトについて受講生が1名でも成立を可能とした。成立プロジェクト数を増やすことにより、他のプロジェクトと相互に刺激し合える関係を構築した。

2013 年度は、ビジネスコース・パブリックコース・プログレスコースともにマッチング率が向上し、その結果、今まで受入れのなかった受入れ先をはじめ、多くの団体へ学生を送り出すことができた。

(7) 受入れ先企業・団体との連携

受入れ先企業・団体との連携を促進し、プログラムの質的な向上を図るため、4 月に説明会を実施した。プログラム開始後の取組みとしては、ビジネスコース、パブリックコースにおいて、8 月中旬から 9 月中旬にかけて学生が実習を行っている間に、コーディネーターが受入れ先を訪問し、学生への指導を行うとともに、受入れ先に対しても、実習状況の確認を行った。12 月には、ビジネス・パブリック・プログレス全コースの受入れ先ご担当者・大学ご担当者・コーディネーターが集まり、今年度のプログラムを振り返る意見交換会を開催した。加えて、プログレスコースについては、1 月に受入れ先・コーディネーターによるプログラムの振り返り会も行った。また、すでに受入れ先として登録実績のある企業・団体へは、アンケート等で次年度の意向確認を行うとともに、本財団職員による訪問を基本として継続受入れの依頼を行った。あわせて、プログラムの質的向上に重点を置き、本財団インターンシップの意義・目的・効果を説明し、再度教育プログラムとしての位置づけの周知を図った。

●ビジネス・パブリックコース受入れ先ご担当者説明会

(日 時) 4 月 17 日(水) 15:30～17:30

(会 場) キャンパスプラザ京都

(参加数) 受入れ先ご担当者 49 名

(内 容) ・2013 年度インターンシップ・プログラムについて

・受入れ先ご担当者および 2012 年度修了生による報告

受入れ先ご担当者:株式会社フラットエージェンシーご担当者

2012 年度修了生:京都工芸繊維大学 3 回生(ビジネスコース:日本新薬株式会社にて実習)



●プログレスコース受入れ先ご担当者説明会

(日 時) 4 月 18 日(木) 17:30～18:00

(会 場) キャンパスプラザ京都

(参加数) 受入れ先ご担当者 16 名

(内 容) 2013 年度のプログラム概要及び年間スケジュールについて

●受入れ先ご担当者・大学ご担当者意見交換会

(日 時) 12 月 5 日(木) 15:00～16:20(全体会)

16:30～17:30(交流会)

(会 場) キャンパスプラザ京都

(参加数) 受入れ先ご担当者 25 名 大学ご担当者 18 名

(内 容) ・2013 年度インターンシップ・プログラム総括に向けて

・受入れ先ご担当者および 2013 年度修了生による事例報告

受入れ先ご担当者:バルトソフトウェア株式会社ご担当者

2013 年度修了生:京都文教大学 2 回生

(パブリックコース:特定非営利活動法人気候ネットワークにて実習)

・2014 年度インターンシップ事業実施スケジュール



●プログレスコース 受入れ先ご担当者・コーディネーター振り返り会

(日 時) 2014年 1月16日(木) 18:00～20:00

(会 場) キャンパスプラザ京都

(参加数) 受入れ先ご担当者8名

(内 容) 2013年度のプログレスコース実施状況の振り返り

(8) 大学・短期大学との連携

学生の所属大学と連携し、共同でプログラム運営を行っている。大学連合としてのプログラムの広報強化、意見交換、情報の共有化を行うとともに、プログラム終了後には、受入れ先からの実習状況の評価や実習生の出席状況・レポート等にもとづき、コーディネーターが採点した成績を各大学に提出した。

また、加盟大学については、学生に対しプログラムの説明を希望する場合には、本財団の職員が赴き、年度初めのオリエンテーション等で説明を行い、3月には大学の担当者を招いて、連絡会議を開催した。

なお、2013年度に本プログラムの受講生に対して単位認定を行っている加盟大学は25大学であり、大学独自でインターンシップを実施している大学も29大学に及んでいる。

●受入れ先ご担当者・大学ご担当者意見交換会(前掲)

(日 時) 12月5日(木) 15:00～16:20(全体会)

16:30～17:30(交流会)

(会 場) キャンパスプラザ京都

(参加数) 受入れ先ご担当者25名 大学ご担当者18名

●大学ご担当者会議

(日 時) 2014年3月6日(木) 15:00～16:30

(会 場) キャンパスプラザ京都

(9) リスクマネジメント

①保険

当財団では、プログラム開始から終了までの期間(実習期間を含む)、全コースの受講生を対象として保険に加入し、不慮の事故やけが等に対応している。

2013年度は、保険金請求に該当する事例はなかった。

【普通傷害保険】

死亡・後遺障害 500万円／入院保険金日額 4,500円／通院保険金日額 3,000円

【個人賠償保険】

てん補限度額 1億円(自己負担額 0円)

②リスクマネジメント講習

ビジネス・パブリックコースにおいては、事前学習にてリスクマネジメント講習を設定し、想定される事例のケーススタディを行った。また、プログレスコースにおいては、初日のオリエンテーションにおいて、「報告・連絡・相談」の重要性とともに、プログラム中に起こりうるリスクへの対応法を受講生に伝えた。

③三者協定書の締結

実習が円滑に進められるよう、受入れ先、受講生の所属大学、当財団の間で三者協定を締結し、不測の事態にも備える体制を整えている。

II. 各コースの紹介

1. ビジネスコース・パブリックコース(資料3.4参照)

このコースでは、「事前学習(仮説の構築) → 実習(仮説の検証) → 事後学習(仮説の再構築)」という一連のプログラムをもってインターンシップ実習とした。

2013年度の事前学習においては、業界・業種別にゼミを28クラス編成し、受入れ先担当者13名および修了生42名のゲストスピーカーとのグループディスカッションを通して、受入れ先についての研究を行い、事前学習レポートを課したほか、ビジネスマナーを含むコミュニケーショントレーニングやリスクマネジメント講習、また、受講生全員に対し論理的思考を養うことを目的としたスキルアップトレーニングを実施した。

また、事後学習では、実習を通して喚起された関心や問題意識などを今後の学生生活における学習課題やキャリア形成につなげるための総括を行い、事後学習レポートの作成と発表を行った。

なお、ビジネス・パブリックコースの事前学習・事後学習の内容については、ケーススタディの蓄積やコーディネーター報告書、受入れ先・受講生アンケートの結果などを踏まえて毎年改善を図っており、2013年度では引き続き、事前学習13コマ、事後学習は5コマの講義時間を設けた。

①事前学習

【目的】 受講生が実習目的、学習目標を明確にし、実習を有意義なものとする。

【内容】 ・実習に対する心構えに関するオリエンテーション

- ・実習現場の課題に関する学習目標の明確化と仮説の構築を目的としたディスカッション
- ・ビジネスマナーを含んだ、コミュニケーショントレーニング
- ・ロジカルシンキングに関するスキルアップトレーニング
- ・リスクマネジメント講習
- ・事前学習レポートの作成

②実習(2週間から1ヶ月程度)

【目的】 日々の体験を通じて、学生自らが実習現場の課題に関する学習目標と仮説の妥当性・有効性を検証する。

【内容】 ・各受入れ先におけるプログラム

- ・受講生は、実習日誌を記入することとし、それに対して受入れ先担当者にコメントをいただく。



③事後学習

【目的】 実習における学習目標と仮説の妥当性・有効性の検証に基づいた仮説の再構築を図る能力を学生が身につけること。さらに実習を通じて喚起された関心、問題意識、経験を今後の学生生活やキャリア形成につなげる。

【内容】 ・ディスカッションを通じた課題や成果の共有

- ・受入れ先も交えた懇親会における経験交流、振り返り
- ・事後学習レポートの作成

2. プログレスコース(資料5.6参照)

このコースは、プロジェクトを通して、さまざまな角度から実社会を見つめ、現状を把握する力、課題を発見する力、その課題を解決する力を身につけることを目的として、約5か月間の比較的長期間にわたり、受入れ先が提示したテーマに沿ってプロジェクトを進めていく実習を行っており、受入れ先にもメリットが明確なプロジェクトの形成を目指した教育プログラムとして構築している。

このプログラムでは、「計画→実施→評価」というプロジェクト・サイクル・マネジメント(PCM)^{*}の流れを教育プログラムとして体系化し、開発援助のプロセスとして用いられる、プロジェクト概念表を活用して運営・管理する手法を学ばせている。

また、プロジェクトを進めるにあたっては、加盟大学の専任教員であるコーディネーターによるファシリテーションを通じて、受入れ先担当者にも常に参画していただき、プロジェクトの進捗状況の確認や今後の進め方についても連携してサポートを行った。さらに、「企業人からのメッセージ」と題した、大阪ガス人事部採用チームによる講演会や中間報告及び成果報告会における最終プレゼンテーションにおいては、プロジェクトを越えて他者からのアドバイスや評価を得られる機会を設けた。



【内 容】・プロジェクト参加に対する心構えに関するオリエンテーション

- ・プレゼンテーショントレーニング
- ・ビジネスマナーを含んだコミュニケーショントレーニング
- ・リスクマネジメント
- ・ディスカッションを通じた課題や成果の共有
- ・レーダーチャートを使用して自己の振り返り
- ・受入れ先も交えた懇親会における経験交流、振り返り
- ・事後学習レポート及びプロジェクト報告書の作成

※<プロジェクト・サイクル・マネジメントの流れ>

第1段階 プロジェクト計画のプロセスを学ぶ(プロジェクトの目標・目的、期待されるプロジェクト成果、その成果を得るための活動などについて明確にする)

第2段階 プロジェクト計画に基づいてプロジェクトを実際に推進する

第3段階 プロジェクト計画とプロジェクト成果を比較してプロジェクトのあり方を評価する

Ⅲ. 受入れ先及び受講生アンケートの結果から

受講生アンケートの結果より、職業意識の変化について、「就職したいと強く思うようになった」あるいは「就職したいと少し思うようになった」と回答した受講生は 82%おり、インターンシップに参加したことが就労意欲へ繋がったことを示している。

また、実習を行った受入れ先への就職を希望する受講生は、「就職したい」「やや就職したい」をあわせると全体の 67%であり、受入れ先と同業種への就職を希望する受講生は、「就職したい」「やや就職したい」と73%が回答していることから、受講生の職業選択に役立っていることがわかる。さらには、実習を通して、実習を行った職種に対するイメージが良くなったと回答する受講生は68%にのぼり、企業PRに一定の成果をあげたといえる。そのうえで、インターンシップ・プログラムの受講を通して、今後の学生生活における目標設定ができたと回答する受講生は、「そう思う」、「思う」をあわせて 60%おり、学習意欲の喚起に繋がったといえる。

一方で、受入れ先企業・団体のアンケート結果からは、受講生の成長について、86%の受入れ先企業・団体が「成長した」と回答しているように、就業体験が受講生の成長につながることを裏付けている。受講生を受け入れたことによる受入れ先企業・団体のメリットについては、74%の受入れ先企業・団体が「メリットが

あった」と回答しているが、受講生の成長感に比べれば、受入れ先の満足度は高いといえない。この点においては、受講生に対する指導が充分かどうか、また、受入れ先企業・団体の負担が大きくないか等、複合的に検討しなければならない。

IV. 今後の課題

2011年に改正された大学・短期大学設置基準において、大学・短期大学は、学生が生涯にわたり持続的な就業力を身につけるとともに、社会的・職業的な自立を図ることができるよう、組織的な「キャリア教育」を行うよう規定されている。これに基づき、本財団のインターンシップ事業は、京都地域の人材育成のニーズに応じた職業教育を、地域・自治体・産業界と複数大学の連携において実現することを「キャリア教育」として位置付け、本プログラムを実施していくことが肝要である。

1. 長期展望

大学コンソーシアム京都の次期中期計画となる「第4ステージプラン(2014～2018年度)」において、インターンシップ事業は、「大学間連携による教育プログラムの充実」というフレームワークに位置付けられ、大学単独のインターンシップ・プログラムが拡大する中にあっても、本財団インターンシップ・プログラムの特徴と優位性を活かし、引き続き質の高い教育プログラムとして推進するため、以下の課題を設定した。

- 教育プログラムとして、産官学地域連携を強化する。
- 効果測定に基づく、本財団インターンシップ・プログラムの特色の明確化と周知
- 実施時期の検討

2. 教育プログラムとしての充実・発展

- ①ビジネス・パブリックコースにおける事前・事後学習の内容充実に向けた検討。
- ②プログレスコースのプロジェクトについて、より性能の高い成果物が得られるようコーディネーターの役割を明確化する。
- ③受け入れ先企業・団体の確保
- ④本財団インターンシップ・プログラムの受講に対し、各大学・短期大学が単位認定を行う場合の仕組みの確立。
- ⑤本財団インターンシップ・プログラムの特色と実績を周知する広報を強化。

3. プログラム運営上の課題

- ①コーディネーターの役割をより明確化し、コーディネーター相互の連携を強化する。
- ②プログレスコースにおける、受入れ先の負担を軽減するため講義運営を検討する。
- ③受入れ先、学生ともに、プログラムへエントリーする際のシステムを再構築し、受入れ先及び学生の利便性向上につなげる。
- ④受入れ先企業・団体に対して、就職協定見直しに伴う受入れ時期変更の意向について調査を行う。

以上

第2章 受入れ先アンケート

I. 受入れ先アンケート用紙

FAX 075-353-9121

インターンシップ事業推進室 行

2013年度インターンシップ 受入れご担当者 アンケート

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業推進室

最後までお手を煩わせ誠に申し訳ございませんが、2013年度の受入れに関して以下の項目についてご意見を頂戴し、2014年度のプロگرام検討のための参考にさせていただきます。ご協力くださいますようお願いいたします。

A. 学生の仕事に対する態度について (複数名受入れて頂いている場合は総合的に)

1. 真剣に取り組んだ
2. 普通
3. 真剣さを感じられなかった

B. 学生の仕事に対する理解について (複数名受入れて頂いている場合は総合的に)

1. 理解が早く手間はかからなかった
2. 普通
3. 理解が遅く指導に手間・時間を取られた

C-1. 貴社・貴団体・貴職にとつて受入れのメリット・成果がありましたか

1. メリット・成果があった
2. どちらともいえない
3. メリット・成果があると感じなかった

-2. 前問で「1. メリット・成果があった」と答えた方にお伺いします。どのようなメリット・成果がありましたか (複数回答可)

1. 大学の連携強化
2. 社内活性化
3. 社のPR・広報・宣伝
4. 優秀な学生との出会い
5. 新たな企画開発
6. 顧客情報の収集
7. その他

具体的に:

D. 実習内容は主にどのようなものですか

1. 社員の基幹的な業務の一部を体験
2. 社員の補助的な業務の一部を体験
3. 社員の通常業務以外の業務
4. 社員同行・出張業務
5. 見学
6. 座学
7. アルバイト・パートの業務の一部を体験
8. その他

E-1. 学生自身は成果・成長があったと思われませんか

1. 成果・成長があったと感じる
2. どちらともいえない
3. 成果・成長があったと思えない

-2. 前問で「1. 成果・成長があったと感じる」と答えた方にお伺いします。どのような成果・成長がありましたか (複数回答可)

1. 学習意欲の喚起
2. 自主性・独創性の育成
3. キャリア形成
4. 問題解決能力の向上
5. 多様な価値観の認識
6. コミュニケーション能力の向上
7. プレゼンテーション能力の向上
8. 社会が求める能力やスキルの向上
9. その他 (具体的に:)

F. 支給された各種手当の総額 (ない場合は「0」) (複数名受入れて頂いている場合は1名あたり)

円

G. 2013年度のインターンシップに関する以下の点についての程度満足されていますか

	非常に満足	満足	やや満足	やや不満足	かなり不満足	非常に不満足
1. 受入れた学生を総合的に見て	1	2	3	4	5	6
2. 受入れ前の学習内容について	1	2	3	4	5	6
3. 財団事務局スタッフの対応について	1	2	3	4	5	6
4. インターンシップ・プログラム全体	1	2	3	4	5	6

H-1. 2014年度のインターンシップ受入れについてお伺いします

1. 受入れる予定である【a. ビジネス・パブリック (短期) コース b. プログレス (長期) コース】
2. 受入れない予定である (差しつかえなければ理由をお教えください:)
3. 未定

-2. 前問で「1.」と答えた方にお伺いします。留学生、または障書を持つ学生の受入れについてはどのようにお考えですか

- ★留学生について
1. 受入れは可能である
 2. 受入れは不可能である
3. 条件付きで受入れは可能である (差しつかえなければ条件をお教えください:)

- ★障書を持つ学生について
1. 受入れは可能である
 2. 受入れは不可能である
3. 条件付きで受入れは可能である (差しつかえなければ条件をお教えください:)

-3. 受入れに関して、学生に求める専門的スキルの等々ありますか (複数回答可)

1. なし
2. 語学【英語・中国語・その他 ()】
3. 実習内容に関する専門的な基礎知識
4. PCスキル【Excel・Word・Power Point・Illustrator・Photoshop・Web作成・CAD・その他】
5. 学部系統 (理工系・文社系・芸術系・その他 () 学部)
6. その他 (具体的に:)

-4. エントリーのご依頼に、財団からご説明に伺うことについて、どのようにお考えですか

1. 是非訪問して説明してほしい
2. 忙しい時期を避けて訪問してほしい
3. 電話で説明してほしい
4. 訪問は不要で、資料のみ送付してほしい
5. その他 ()

I. 当財団のインターンシップについてご意見、ご要望がございましたらご記入ください

[]

J-1. 当財団のインターンシップ以外の受入れについてお伺いします

1. 他からもインターンシップ実習生を受入れしている
 2. 他からはインターンシップ実習生を受入れしていない (差しつかえなければ理由をお教えください:)
- 2. 前問で「1.」と答えた方にお伺いします。どのように受入れされていますか。
1. 公募での受入れ
 2. 各大学・短期大学を通じての受入れ
 3. その他 (差し支えなければお教えください:)

貴社・貴団体名: _____

ご所属・役職: _____

ご芳名: _____

ご協力ありがとうございました。

Ⅱ. 受入れ先アンケート結果

2013年度受講生を受け入れていただいた企業・団体に対して、実習終了後にアンケートを実施した。以下は、その内容を集計したものである。

アンケート結果や個別の意見・要望等については、次年度以降のプログラム策定やシラバスの改善などに役立っている。

<アンケート実施日>

ビジネスコース、パブリックコース：2013年9月中旬～下旬（実習終了後）

プログレスコース：2013年11月下旬～12月初旬（プロジェクト終了後）

<有効回答数>

表1

	受入れ団体数	回答団体数	回答率
ビジネスコース	150	114	76%
パブリックコース	44	33	75%
プログレスコース	7	7	100%
合計	201	154	77%

※なお、以下のアンケート結果の数値は、小数点第1位を四捨五入しているため、必ずしも合計が100%にはならない。

また、無回答は集計時に割合として含んでいない。()内は総計における無回答数の割合を示す。

<アンケート結果>

A. 学生の仕事に対する態度について

表2

	ビジネス		パブリック		プログレス		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
真剣であった	92	81%	30	91%	2	29%	124	81%
普通	21	18%	3	9%	3	43%	27	18%
真剣でなかった	1	1%	0	0%	2	29%	3	2%
有効回答数	114	100%	33	100%	7	100%	154	100%
無回答	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
総計	114		33		7		154	

B. 学生の仕事に対する理解について

表3

	ビジネス		パブリック		プログレス		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
理解が早い	61	54%	19	58%	1	14%	81	53%
普通	49	43%	13	39%	5	71%	67	44%
理解が遅い	4	4%	1	3%	1	14%	6	4%
有効回答数	114	100%	33	100%	7	100%	154	100%
無回答	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
総計	114		33		7		154	

C-1. 貴社・貴団体・貴職にとって受入れのメリットについて

表4

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
メリット・成果あり	79	70%	28	88%	5	71%	112	74%
どちらでもない	31	27%	4	13%	2	29%	37	24%
メリット・成果なし	3	3%	0	0%	0	0%	3	2%
有効回答数	113	100%	32	100%	7	100%	152	100%
無回答	1	(0%)	1	(0%)	0	(0%)	2	(0%)
総計	114		33		7		154	

C-2. 具体的なメリットについて (複数回答)

表5

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
大学との連携強化	16	20%	4	14%	0	0%	20	18%
社内活性化	59	75%	20	71%	4	80%	83	74%
自社のPR・広報・宣伝	22	28%	6	21%	3	60%	31	28%
優秀な学生との出会い	29	37%	9	32%	0	0%	38	34%
新たな企画開発	13	16%	2	7%	1	20%	16	14%
顧客情報の収集	6	8%	1	4%	0	0%	7	6%
その他	19	24%	10	36%	2	40%	31	28%

※C-1で「メリット・成果あり」と回答した受入れ先のみ回答

D. 実習内容は主にどのようなものですか (複数回答)

表6

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
社員の基幹的な業務の一部を体験	60	53%	19	58%	3	43%	82	53%
社員の補助的な業務の一部を体験	51	45%	15	45%	3	43%	69	45%
社員の通常業務以外の業務	8	7%	2	6%	4	57%	14	9%
社員同行・出張業務	20	18%	6	18%	1	14%	27	18%
見学	27	24%	4	12%	0	0%	31	20%
座学	19	17%	2	6%	0	0%	21	14%
アルバイト・パートの業務の一部を体験	12	11%	1	3%	1	14%	14	9%
その他	15	13%	3	9%	0	0%	18	12%

E-1. 学生の成果・成長について

表7

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
成果・成長あり	100	88%	30	91%	3	43%	133	86%
どちらでもない	14	12%	3	9%	4	57%	21	14%
成果・成長なし	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
有効回答数	114	100%	33	100%	7	100%	154	100%
無回答	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
総計	0	0	0	0	0	0	0	0

E-2. 具体的な成長・成果について (複数回答)

表8

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
学習意欲の喚起	34	34%	10	33%	2	67%	46	35%
自主性・独創性の育成	32	32%	10	33%	2	67%	44	33%
キャリア形成	12	12%	6	20%	2	67%	20	15%
問題解決能力の向上	13	13%	4	13%	0	0%	17	13%
多様な価値観の認識	53	53%	22	73%	1	33%	76	57%
コミュニケーション能力の向上	47	47%	10	33%	2	67%	59	44%
プレゼンテーション能力の向上	19	19%	1	3%	0	0%	20	15%
社会が求める能力やスキルの向上	26	26%	6	20%	0	0%	32	24%
その他	8	8%	2	7%	1	33%	11	8%

※E-1で「成果・成長あり」と回答した受入れ先のみ回答

F. 支給された各種手当の総額について

表9

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0円	97	85%	31	94%	6	86%	134	87%
1円～4,999円	6	5%	1	3%	1	14%	8	5%
5,000円～9,999円	2	2%	1	3%	0	0%	3	2%
10,000円～19,999円	6	5%	0	0%	0	0%	6	4%
20,000円以上	3	3%	0	0%	0	0%	3	2%
有効回答数	114	100%	33	100%	7	100%	154	100%
無回答	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
総計	114		33		7		154	

G. 本年度のインターンシップに対する満足度

※平均は、各項目の回答数に評価点を掛けたものを有効回答数で割った値である。

G-1. 受入れた学生を総合的に見て

表10

	(評価点)	ビジネス		パブリック		プロGRESS		計	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
非常に満足	6	21	18%	7	21%	0	0%	28	18%
かなり満足	5	47	41%	15	45%	2	29%	64	42%
やや満足	4	33	29%	10	30%	1	14%	44	29%
やや不満	3	10	9%	0	0%	2	29%	12	8%
かなり不満	2	2	2%	1	3%	2	29%	5	3%
非常に不満	1	1	1%	0	0%	0	0%	1	1%
有効回答数		114	100%	33	100%	7	100%	154	100%
無回答		0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
※平均			4.63		4.82		3.43		4.62

G-2. 受入れ前の学習内容について

表11

	(評価点)	ビジネス		パブリック		プロGRESS		計	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
非常に満足	6	14	13%	2	6%	0	0%	16	11%
かなり満足	5	34	31%	14	42%	0	0%	48	32%
やや満足	4	52	47%	15	45%	3	43%	70	46%
やや不満	3	10	9%	2	6%	3	43%	15	10%
かなり不満	2	1	1%	0	0%	0	0%	1	1%
非常に不満	1	0	0%	0	0%	1	14%	1	1%
有効回答数		111	100%	33	100%	7	100%	151	100%
無回答		3	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	3	(0%)
※平均			4.45		4.48		3.14		4.40

G-3. 事務局スタッフの対応について

表12

	(評価点)	ビジネス		パブリック		プロGRESS		計	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
非常に満足	6	24	22%	5	15%	2	29%	31	21%
かなり満足	5	44	41%	9	27%	3	43%	56	38%
やや満足	4	34	31%	19	58%	1	14%	54	36%
やや不満	3	6	6%	0	0%	1	14%	7	5%
かなり不満	2	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
非常に不満	1	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
有効回答数		108	100%	33	100%	7	100%	148	100%
無回答		6	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	6	(0%)
※平均			4.80		4.58		4.86		4.75

G-4. インターンシップ・プログラム全体

表13

	(評価点)	ビジネス		パブリック		プロGRESS		計	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
非常に満足	6	18	16%	3	9%	1	14%	22	15%
かなり満足	5	41	37%	12	36%	2	29%	55	37%
やや満足	4	47	43%	17	52%	1	14%	65	43%
やや不満	3	4	4%	1	3%	2	29%	7	5%
かなり不満	2	0	0%	0	0%	1	14%	1	1%
非常に不満	1	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
有効回答数		110	100%	33	100%	7	100%	150	100%
無回答		4	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	4	(0%)
※平均			4.66		4.52		4.00		4.60

H-1. 2014年度のインターンシップ受入れについて

表14

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
受入れる予定	82	72%	25	76%	5	71%	112	73%
受入れない予定	4	4%	0	0%	0	0%	4	3%
未定	28	25%	8	24%	2	29%	38	25%
有効回答数	114	100%	33	100%	7	100%	154	100%
無回答	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
総計	114		33		7		154	

H-2-1. 留学生の受入れについて

表15

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
受入れは可能	17	21%	4	16%	1	20%	22	20%
受入れは不可能	36	44%	6	24%	1	20%	43	39%
条件付で受入れは可能	28	35%	15	60%	3	60%	46	41%
有効回答数	81	100%	25	100%	5	100%	111	100%
無回答	1	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	1	(0%)
総計	82		25		5		112	

※H-1で「受入れる予定」と回答した受入れ先のみ回答

H-2-2. 障害を持つ学生の受入れについて

表16

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
受入れは可能	5	6%	2	8%	1	20%	8	7%
受入れは不可能	50	62%	8	33%	2	40%	60	55%
条件付で受入れは可能	26	32%	14	58%	2	40%	42	38%
有効回答数	81	100%	24	100%	5	100%	110	100%
無回答	1	(0%)	1	(0%)	0	(0%)	2	(0%)
総計	82		25		5		112	

※H-1で「受入れる予定」と回答した受入れ先のみ回答

H-3. 受入れに関して学生に求める専門スキルについて（複数回答）

表17

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
なし	52	64%	10	42%	1	20%	63	57%
語学	8	10%	2	8%	0	0%	10	9%
実習内容の基礎知識	9	11%	4	17%	0	0%	13	12%
PCスキル	43	53%	20	83%	4	80%	67	61%
学部系統	9	11%	0	0%	1	20%	10	9%
その他	12	15%	4	17%	2	40%	18	16%

「その他」自由記述より

- ・ 社会人としてのマナー【飲食・宿泊】
- ・ 企画力【サービス業・その他】
- ・ C言語プログラミング能力【情報・通信・マスコミ】
- ・ 社会人基礎マナー【運輸・流通】
- ・ 高い意欲や積極性【官公庁】

Ⅲ. 受入れ先アンケート自由記述(抜粋)

自由記述については、基本的に原文をそのまま掲載した。ただし、誤字・脱字および個人名・企業名等特定される個所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

実習生を受け入れたメリット・成果について

- 社員が毎日の仕事を学生さんに理解していただく指導力がついたと思います。【卸売・小売・販売】
- 現在の学生の意見を聞くことができ、大変参考になりました。【製造】
- 学生との交流により、社員にも若い世代の考え方、発想が刺激となった。成果発表で新製品等の提案もいただいた。
【卸売・小売・販売】
- 実習生に対してフォロー教育する社員(OJT)の勉強になった。【卸売・小売・販売】
- 業界のPR広報宣伝。【金融・保険・証券】
- 版下制作全般を指導することで、制作時全員が今一度基本に立ち戻り、自分自身を見直すことにつながるのが良い
と思います。【出版・印刷・広告】
- 昨今の大学生の本音等が聞けて勉強になります。【運輸・流通】
- 新卒採用の会社説明会へつなげる可能性が広がった。【運輸・流通】
- 業務改善やアイデアの吸収。【教育】
- 積極的でまじめな実習態度に、職員も初心に戻って、それぞれの業務に対する認識を改めて確認したように感じて
います。【教育】
- 学生に業務を教えることにより、既存のスタッフ間でも業務の確認や均一化など見直しができた。【サービス業・その他】
- 自社のPRにつながりました。【建設・不動産】
- イベント等においては、人手が少ない中、一要員としての役割を果たしていただいた。【教育】
- 実習生が行った業務を、成果物(動画編集や受付業務等)として活用できた。【官公庁】
- 受入所管課職員の指導育成能力の向上。【官公庁】
- イベントの実施体制の充実。【官公庁】
- テーマに基づく調査研究の成果報告により、業務改善につながる提案があった。【官公庁】
- 都市農村交流の情報発信や業務改善について、大学生の視点による意見を聞きながら検討できたことは有意義だ
った。また、実習生の指導担当職員にとっては、自らの業務の位置づけを再認識し、モチベーションが向上するという
メリットがあった。【官公庁】
- 文化財デジタルデータの整理や発掘調査、イベント準備等に從事していただき、業務の遂行に手助けをいただきま
した。【官公庁】
- 学生だからこそその視点で成果品(展示)をつくった。【非営利組織<NPO・NGO>】
- 学生が館内活動を行うことで、館内全体の雰囲気良かった。また、学生の自主企画に取り組む姿勢が職員の刺激
となった。【非営利組織<NPO・NGO>】
- 演習校では、若い学生の先生が来られることを子どもたちも楽しみにしております。【プログレス】

実習生の成長・成果について

- これまでに経験したことのない団体・集団での活動や、今自分に足りていないと思うようなことに気づけたのではないかと思います。【製造】
- 年々学生の質が向上していると感じています。真剣に取り組まれ理解も早いです。【運輸・流通】
- 自分のアート作品づくりと、印刷と版下制作との違いを解っていただいた。【出版・印刷・広告】
- 広く社会というものに触れることができた。【運輸・流通】
- 職業選択に対する実習生の思いと現実のミスマッチの解消になっている。【官公庁】
- リアルな職場体験の場で、「学生」、「アルバイト」、「社会人」との意識の違いに気づける人にとっては、多くの「気づき」があったと思う。【非営利組織<NPO・NGO>】
- 今年初めて遅刻、日程変更する学生を受けました。残念なことに説明力が乏しく、反応も薄く、理解するに至らないまま終わりました。【非営利組織<NPO・NGO>】
- 教員としての資質能力、実践力の向上になった。【プログレス】

ご意見・ご要望

- マナー等、基本的なことがきちんとしていたので助かりました。【飲食・宿泊】
- お客様にインターンシップ生なので仕方ないというのは通用しません。インターンシップ生もホテルの印象に大きく影響します。お越しいただいた方に満足して帰っていただき、又来たいと思っただけようスタッフ一同務めております。学生の選考に置いては責任を持って選んでいただき、ご指導いただきますようお願いいたします。【飲食・宿泊】
- 引き続きホテル業に興味があり、将来ホテルで働きたいと志望している学生さんがいたら、実習に来ていただきたいです。【飲食・宿泊】
- インターンシップでの経験で、就職活動にどう繋がったか差支えない範囲でお教えいただきたい。(同じような業界に就職したのか?など)【卸売・小売・販売】
- 事前学習に時間を取っていただいているので充分です。【卸売・小売・販売】
- 2015年からの新就職協定に沿ったインターンシップ制度改定があるなら、早く教えてほしい。【情報・通信・マスコミ】
- インターン期間は短いので、実習前に少しでも社会になれるような経験があれば、有意義に時間をすごせるのではと思います。【情報・通信・マスコミ】
- 毎年事務局で面接していただいて一定レベルの学生さんが実習に来られています。今後ともよろしく願いいたします。【出版・印刷・広告】
- 今回お越しいただいた担当講師の方は、受入れ先側としても大変考えさせられる良い内容でした。【出版・印刷・広告】
- 学生の質の向上。【情報・通信・マスコミ】
- 学生が何を学んでいるのか、インターンシップを通して何がしたいのか、より具体的に提示していただけるとありがたいです。【製造】
- 事前学習でマナー講習等を実施していただけたことで、来客対応も問題なく同行いただけました。しかし、実習中、遠慮しすぎて質問ができなかったこともあったようです。せっかく参加いただいたので積極的に質問をいただけたらと感じました。【製造】
- 中間指導についてですが、実習スケジュールがあらかじめ決まっていますので、時間指定は避けていただきたいです。また、実習も始まっていない時点なので、実習生は実習スケジュールが把握できていませんので、日程の調整は、実習生を通してではなく直接担当者にご連絡いただけると幸いです。【卸売・小売・販売】

- 理工系学部の中でも、電気若しくは機械を専門に学んでいる学生をお願いします。【製造】
- 毎年お世話になりありがとうございます。インターンシップは学生にとっても自社にとっても意義ある事業だと思いますので、今後も継続して取り組んでいきたいと思っています。【建設・不動産】
- 当社の事業に興味がある学生がいらっしゃれば、是非ご紹介ください。【建設・不動産】
- 私学試験期間中ではありますが、7/20～8/10 頃の間で配属可能な学生さんがいらっしゃれば、この上なくうれしいです。【運輸・流通】
- 実習生決定通知後、事前訪問までの期間が短すぎる。【教育】
- 採用・選考のスケジュールが大きく変わっても、教育プログラムとしての質を変わずに維持し続けてください。【教育】
- 今回もそうでしたが、引き続き、意欲の高いインターン学生の派遣をお願いします。【教育】
- インターンシップ実習生とのヒアリング等で、時間をかけてよく指導されている。【教育】
- マナー以前の「仕事に向かう取組み姿勢」を事前に養っておく必要があると感じます。(業務中にいねむりをしないなど)【教育】
- 毎年良い学生に出会えて大変喜んでおります。今後もよろしく願いいたします。【サービス業・その他】
- 実習説明会の日程や実習期間の決定について、今年度より学生と受入れ団体の間で行うこととなったが、連絡が取りづらいことや学生間の不正確な情報伝達等があったため、決定事項についてはコンソーシアムを通して連絡するようにはしてほしい。【官公庁】
- 実習希望学生と当方の業務内容がマッチすることが望ましい。【官公庁】
- 一人でも多くの多文化共生に向けての担い手を育成したいと考えており、より多くの大学生の方に現場を体験していただき、活動を広げていただきたいと考えております。多種多様なバックグラウンド経験をお持ちの方のインターンの参加をお待ちしております。【非営利組織<NPO・NGO>】
- インターン終了後も学生とつながりが持てるよう指導。(インターン生には終了後も活動継続(ボランティア・バイト)をよびかけてはいますが、縁が切れてしまう学生も多いので)【非営利組織<NPO・NGO>】
- 今年度のパンフレットに、受け入れた学生さんを掲載いただきありがとうございました。【非営利組織<NPO・NGO>】
- 実習日誌に、職員も毎日記入するのは負担に感じております。簡略化などを検討していただければ幸いです。【非営利組織<NPO・NGO>】
- 短期コースはまとまった仕事をお任せすることができず、どうしても「お手伝い」的なことになってしまいます。何らかの達成感につながるように工夫を重ねていきます。【非営利組織<NPO・NGO>】
- インターン開始 5 日目で担当教員の間振り返りがありました。都合があると思いますが、もう少し受入期間をみて振り返りの日程を決めた方が良いのではないのでしょうか。【非営利組織<NPO・NGO>】
- 10 年間カリキュラムが変わっていない。毎年、受入れ先の意見が反映されていない。改善が見られない。【プログレス】
- 事前学習の内容が必ずしも実習で活かせるものではないなど、企業担当者が出席する必要を感じませんでした。せっかく実習開始まで毎週集まっているので、学生と担当者、コーディネーターの先生方とで実習内容の打合せの時間に使いたかったです。【プログレス】
- 講義の内容がプログラムとしてフィットしているか疑問。例えば、プレゼン作成などの時間にしてしまうのは無駄に感じます。【プログレス】

インターンシップに関するアンケート

2013年9月
公益財団法人 大学コンソーシアム京都

◆アンケートご協力のお願い

このアンケートは、インターンシップ・プログラムに参加した皆さんのプログラムに対する感想や就職に関する考え方がどのように変化したかをお聞きし、今後のインターンシップ・プログラムに役立てようとするものです。実習に参加する前にどう答えたいかは気にせず、素直にお答えください。

受講コース [ビジネス・パブリック]
性別 [男・女]
学年 []年次/回生

Q 1. あなたが所属する大学・学部では、大学コンソーシアム京都のインターンシップを受講すると単位認定がなされますか。

1. 単位認定あり 2. 単位認定なし 3. 不明

Q 2. Q 1で「1. 単位認定あり」と回答した方にお聞きします。所属大学・学部において、受講登録をしましたか。

1. 受講登録した 2. 受講登録しなかった (理由: [])

Q 3. 実習の実働日数 (実習期間から指定休日を除いた日数)

[] 日間

Q 4. 実習の実働日数について

1. 長すぎる 2. やや長い 3. 適当 4. やや短い 5. 短すぎる

Q 5. あなたが実習をおこなった受入先は、出願時に第何順位で希望した受入先ですか。また、そのマッチング結果の満足度は何%ですか。(希望どおりなら100%)

第 [] 順位 [] に希望した受入先で、そのマッチング結果の満足度は [] %

Q 6. 受入先への就職希望について

1. 就職したい 2. やや就職したい 3. あまり就職したくない 4. 就職したくない

Q 7. 受入先と同業種への就職希望について

1. 就職したい 2. やや就職したい 3. あまり就職したくない 4. 就職したくない

Q 8. 就職に対する意識の変化について

1. 就職したいと強く思うようになった
2. 就職したいと少し思うようになった
3. 就職に対する気持ちにそれほど変化はなかった
4. 就職したくないと少し思うようになった
5. 就職したくないと強く思うようになった

Q 9. 実習前と比較して、実習した受入先の業種・職種イメージはどのようになりましたか。

1. 良くなった 2. 変わらなかった 3. 悪くなった

Q 10. インターンシップ実習で何を得られましたか?

働くということを実感できた	1	2	3	4	5
実習先について知ることができた	1	2	3	4	5
自分のスキルや専門知識が向上した	1	2	3	4	5
自分の力試しが出来た	1	2	3	4	5
卒業までの目標設定ができた	1	2	3	4	5
実習先に貢献できた	1	2	3	4	5
他大学の学生・教員とのネットワークができた	1	2	3	4	5

Q 11. 実習を終えた今の自分が社会に出る際に不安だと思ふことは何ですか?

ビジネスマナーや話し方など	1	2	3	4	5
職場の人との人間関係など	1	2	3	4	5
スキルや専門知識など	1	2	3	4	5
体調管理など	1	2	3	4	5

Q 12. インターンシップに関する以下の事項について、どの程度満足していますか?

業界別のクラス分け	1	2	3	4	5	6
担当コーディネーター(教員)の指導	1	2	3	4	5	6
事前学習・事後学習	1	2	3	4	5	6
コミュニケーショントレーニング(マナー講習)	1	2	3	4	5	6
スキルアップトレーニング(ロジカルシンキング)	1	2	3	4	5	6
実習日誌による記録	1	2	3	4	5	6
受入れ先での実習内容	1	2	3	4	5	6
事務局の対応	1	2	3	4	5	6
インターンシップ・プログラム全体	1	2	3	4	5	6

Q 13. インターンシップやインターンシップ・プログラムに関して気付いたことや意見・感想があれば自由に記入してください。

[]

インターンシップに関するアンケート

2013年11月
公益財団法人 大学コンソーシアム京都

◆アンケートご協力のお願い

このアンケートは、インターンシップ・プログラムに参加した皆さんのプログラムに対する感想や就職に関する考え方がどのように変化したかをお聞きし、今後のインターンシップ・プログラムに役立てようとするものです。実習に参加する前にどう答えたいかは気にせず、率直にお答えください。

性別 [男 ・ 女]
学年 []年次/回数

Q1. あなたが所属する大学・学部では、大学コンソーシアム京都のインターンシップを受講すると単位認定がなされますか。

1. 単位認定あり 2. 単位認定なし 3. 不明

Q2. Q1で「1. 単位認定あり」と回答した方にお聞きします。所属大学・学部において、受講登録をしましたか。

1. 受講登録した 2. 受講登録しなかった (理由:)

Q3. プロジェクトに要した日数 (キャンパスプラザでの講義日を含まない) 日間

Q4. プロジェクトに要した日数について

1. 長すぎる 2. やや長い 3. 適当 4. やや短い 5. 短すぎる

Q5. あなたがプロジェクトをおこなった受入先は、出願時に第何順位で希望した受入先ですか。また、そのマッチング結果の満足度は何%ですか。(希望どおりなら100%)

第 [] 順位 に希望した受入先で、そのマッチング結果の満足度は [] %

Q6. 受入先への就職希望について

1. 就職したい 2. やや就職したい 3. あまり就職したくない 4. 就職したくない

Q7. 受入先と同業種への就職希望について

1. 就職したい 2. やや就職したい 3. あまり就職したくない 4. 就職したくない

Q8. 就職に対する意識の変化について

1. 就職したいと強く思うようになった
2. 就職したいと少し思うようになった
3. 就職に対する気持ちにそれほど変化はなかった
4. 就職したくないと少し思うようになった
5. 就職したくないと強く思うようになった

Q9. プロジェクト開始前と比較して、受入先の業種・職種イメージはどのようになりましたか。

1. 良くなった 2. 変わらなない 3. 悪くなった

裏面も回答してください

Q10. インターンシップで何を得られましたか?

	そう思わない		そう思う
働くということを実感できた	1	2	3
受入先について知ることができた	1	2	3
自分のスキルや専門知識が向上した	1	2	3
自分の力試しが出来た	1	2	3
卒業までの目標設定ができた	1	2	3
受入先に貢献できた	1	2	3
他大学の学生・教員とのネットワークができた	1	2	3

Q11. プロジェクトを終えた今の自分が社会に出る際に不安だと思うことはなんですか?

	不安だ		不安でない
ビジネスマナーや話し方など	1	2	3
職場の人との人間関係など	1	2	3
スキルや専門知識など	1	2	3
体調管理など	1	2	3

Q12. インターンシップに関する以下の事項について、どの程度満足していますか?

	不満足		満足
講義の場所 (キャンパスプラザ)	1	2	3
講義の曜日 (木曜日)	1	2	3
講義の開催時間 (18:00~21:10)	1	2	3
担当教員の関わり方・意見交換等	1	2	3
オリエンテーション	1	2	3
修了生によるプロジェクトの経験談等の発表	1	2	3
ワークシートを用いたプロジェクト形成	1	2	3
コミュニケーショントレーニング	1	2	3
プレゼンテーショントレーニング	1	2	3
最終プレゼンテーション	1	2	3
実習日誌による記録	1	2	3
受入れ団体でのプロジェクト内容	1	2	3
事務局の対応	1	2	3
インターンシップ・プログラム全体	1	2	3

Q13. インターンシップやインターンシップ・プログラムに関して気付いたことや意見・感想があれば自由に記入してください。

[]

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

II. 受講生アンケート結果

2013年度受講生に対して、プログラム最終日にアンケートを実施した。

以下は、その内容を集計したものである。

前述の受入れ先アンケートと同様、その結果や個別の意見等については、2014年度以降のプログラムの策定やシラバスの改善などに役立っている。

<アンケート実施日>

ビジネスコース・パブリックコース/2013年9月28日(土):事後学習時

プログレスコース/2013年11月16日(土):成果報告会当日

<有効回答数>

表1

	受講生数	回答数	回答率
ビジネスコース	303	290	96%
パブリックコース	108	102	94%
プログレスコース	45	45	100%
合計	456	437	96%

※なお、以下のアンケート結果の数値は、小数点第1位を四捨五入しているため、必ずしも合計が100%にはならない。

<アンケート結果>

1. 所属大学における単位認定

表2

	ビジネス		パブリック		プログレス		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
単位認定あり	173	60%	48	47%	11	24%	232	53%
単位認定なし	93	32%	38	37%	23	51%	154	35%
不明	23	8%	16	16%	10	22%	49	11%
有効回答数	289	100%	102	100%	44	98%	435	100%
無回答	1	(0%)	0	(0%)	1	(2%)	2	(0%)
総計	290		102		45		437	

2. 受講登録

表3

	ビジネス		パブリック		プログレス		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
登録	117	68%	31	65%	8	73%	156	67%
未登録	53	31%	13	27%	3	27%	69	30%
有効回答数	170	98%	44	92%	11	100%	225	97%
無回答	3	(2%)	4	(8%)	0	(0%)	7	(3%)
総計	173		48		11		232	

3. 実習の実働日数

表4

	ビジネス		パブリック		プログレス		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
10日未満	38	13%	2	2%	0	0%	40	9%
10日間	162	56%	34	33%	1	2%	197	45%
11～14日	31	11%	19	19%	2	4%	52	12%
15～19日	30	10%	31	30%	10	22%	71	16%
20日以上	20	7%	12	12%	26	58%	58	13%
有効回答数	281	97%	98	96%	39	87%	418	96%
無回答	9	(3%)	4	(4%)	6	(13%)	19	(4%)
総計	290		102		45		437	

4. 実習期間の長さについて

表5

	ビジネス		パブリック		プログレス		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
長すぎる	11	4%	4	4%	1	2%	16	4%
やや長い	44	15%	19	19%	3	7%	66	15%
適当	191	66%	65	64%	30	67%	286	65%
やや短い	40	14%	12	12%	8	18%	60	14%
短すぎる	4	1%	2	2%	0	0%	6	1%
有効回答数	290	100%	102	100%	42	93%	434	99%
無回答	0	(0%)	0	(0%)	3	(7%)	3	(1%)
計	290		102		45		437	

4-1. 実習日数と長さについて(ビジネスコース)

表6

実習日数	実習期間の長さについて					計
	長すぎる	やや長い	適当	やや短い	短すぎる	
10日未満	0	0	22	14	2	38
10日間	1	19	121	19	2	162
11～14日	1	5	22	3	0	31
15～19日	6	11	9	4	0	30
20日以上	3	7	10	0	0	20
有効回答数	11	42	184	40	4	281
無回答	0	2	7	0	0	9
総計	11	44	191	40	4	290

4-2. 実習日数と長さについて(パブリックコース)

表7

実習日数	実習期間の長さについて					計
	長すぎる	やや長い	適当	やや短い	短すぎる	
10日未満	0	0	2	0	0	2
10日間	1	2	25	5	1	34
11～14日	1	5	13	0	0	19
15～19日	1	9	17	4	0	31
20日以上	1	3	4	3	1	12
有効回答数	4	19	61	12	2	98
無回答	0	0	4	0	0	4
総計	4	19	65	12	2	102

4-3. 実習日数と長さについて(プログレスコース)

表8

実習日数	実習期間の長さについて					計
	長すぎる	やや長い	適当	やや短い	短すぎる	
10日未満	0	0	0	0	0	0
10日間	0	0	0	1	0	1
11～14日	0	0	1	1	0	2
15～19日	0	0	7	2	0	9
20日以上	0	3	19	4	0	26
有効回答数	0	3	27	8	0	38
無回答	1	0	3	0	0	4
総計	1	3	30	8	0	42

5-1. 出願時の志望先と実際の実習先の満足度(ビジネスコース)

表9

志望順位	満足度					計
	0~20%	21~40%	41~60%	61~80%	81%~	
第1順位	6	1	6	28	145	186
第2順位	2	1	8	22	25	58
第3順位	2	0	3	14	11	30
第4順位	2	0	0	2	1	5
有効回答数	12	2	17	66	182	279
無回答	5	0	0	2	4	11
総計	17	2	17	68	186	290

5-2. 出願時の志望先と実際の実習先の満足度(パブリックコース)

表10

志望順位	満足度					計
	0~20%	21~40%	41~60%	61~80%	81%~	
第1順位	0	0	1	7	39	47
第2順位	0	0	2	5	17	24
第3順位	0	2	6	5	9	22
第4順位	1	0	1	2	0	4
有効回答数	1	2	10	19	65	97
無回答	1	1	1	2	0	5
総計	2	3	11	21	65	102

5-3. 出願時の志望先と実際の実習先の満足度(プログレスコース)

表11

志望順位	満足度					計
	0~20%	21~40%	41~60%	61~80%	81%~	
第1順位	1	0	3	3	34	41
第2順位	0	0	0	0	3	3
第3順位	0	0	0	0	0	0
第4順位	0	0	0	0	0	0
有効回答数	1	0	3	3	37	44
無回答	1	0	0	0	0	1
総計	2	0	3	3	37	45

6. 受入れ先への就職希望について

表12

	ビジネス		パブリック		プログレス		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
就職したい	60	21%	30	29%	27	60%	117	27%
やや就職したい	126	43%	36	35%	11	24%	173	40%
あまり就職したくない	68	23%	25	25%	6	13%	99	23%
就職したくない	33	11%	10	10%	1	2%	44	10%
有効回答数	287	99%	101	99%	45	100%	433	99%
無回答	3	(1%)	1	(1%)	0	(0%)	4	(1%)
計	290		102		45		437	

7. 受入れ先と同業種への就職希望について

表13

	ビジネス		パブリック		プログレス		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
就職したい	82	28%	34	33%	27	60%	143	33%
やや就職したい	126	43%	39	38%	9	20%	174	40%
あまり就職したくない	59	20%	20	20%	6	13%	85	19%
就職したくない	23	8%	8	8%	3	7%	34	8%
有効回答数	290	100%	101	99%	45	100%	436	100%
無回答	0	(0%)	1	(1%)	0	(0%)	1	(0%)
計	290		102		45		437	

8. 就職に対する意識の変化について

表14

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
就職したいと強く思うようになった	157	54%	62	61%	27	60%	246	56%
就職したいと少し思うようになった	78	27%	24	24%	10	22%	112	26%
就職に対する意識に変化なし	38	13%	14	14%	6	13%	58	13%
就職したくないと少し思うようになった	13	4%	1	1%	2	4%	16	4%
就職したくないと強く思うようになった	4	1%	1	1%	0	0%	5	1%
有効回答数	290	100%	102	100%	45	100%	437	100%
無回答	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
計	290		102		45		437	

9. 実習前と比較して、実習した受入れ先の業種・職種のイメージはどうなりましたか

表15

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
良くなった	189	65%	69	68%	37	82%	295	68%
変わらない	91	31%	30	29%	8	18%	129	30%
悪くなった	10	3%	3	3%	0	0%	13	3%
有効回答数	290	100%	102	100%	45	100%	437	100%
無回答	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
計	290		102		45		437	

10. インターンシップ実習で何をられましたか

働くということを実感できた

表16

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
そう思う	136	47%	42	41%	31	69%	209	48%
思う	92	32%	38	37%	10	22%	140	32%
どちらでもない	39	13%	15	15%	2	4%	56	13%
あまり思わない	13	4%	6	6%	1	2%	20	5%
そう思わない	10	3%	1	1%	0	0%	11	3%
有効回答数	290	100%	102	100%	44	98%	436	100%
無回答	0	(0%)	0	(0%)	1	(2%)	1	(0%)
計	290		102		45		437	

実習先について知ることができた

表17

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
そう思う	170	59%	54	53%	29	64%	253	58%
思う	89	31%	38	37%	13	29%	140	32%
どちらでもない	14	5%	5	5%	2	4%	21	5%
あまり思わない	9	3%	3	3%	0	0%	12	3%
そう思わない	8	3%	2	2%	0	0%	10	2%
有効回答数	290	100%	102	100%	44	98%	436	100%
無回答	0	(0%)	0	(0%)	1	(2%)	1	(0%)
計	290		102		45		437	

自分のスキルや専門知識が向上した

表18

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
そう思う	59	20%	22	22%	14	31%	95	22%
思う	121	42%	35	34%	20	44%	176	40%
どちらでもない	75	26%	32	31%	10	22%	117	27%
あまり思わない	23	8%	11	11%	0	0%	34	8%
そう思わない	11	4%	2	2%	0	0%	13	3%
有効回答数	289	100%	102	100%	44	98%	435	100%
無回答	1	(0%)	0	(0%)	1	(2%)	2	(0%)
計	290		102		45		437	

自分の力試しができた

表19

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
そう思う	77	27%	32	31%	16	36%	77	18%
思う	112	39%	32	31%	20	44%	124	28%
どちらでもない	70	24%	28	27%	6	13%	104	24%
あまり思わない	22	8%	10	10%	2	4%	74	17%
そう思わない	9	3%	0	0%	0	0%	57	13%
有効回答数	290	100%	102	100%	44	98%	436	100%
無回答	0	(0%)	0	(0%)	1	(2%)	1	(0%)
計	290		102		45		437	

卒業までの目標設定ができた

表20

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
そう思う	67	23%	29	28%	18	40%	114	26%
思う	97	33%	37	36%	14	31%	148	34%
どちらでもない	80	28%	26	25%	9	20%	115	26%
あまり思わない	34	12%	8	8%	2	4%	44	10%
そう思わない	12	4%	2	2%	1	2%	15	3%
有効回答数	290	100%	102	100%	44	98%	436	100%
無回答	0	(0%)	0	(0%)	1	(2%)	1	(0%)
計	290		102		45		437	

実習先に貢献できた

表21

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
そう思う	24	8%	14	14%	3	7%	41	9%
思う	77	27%	33	32%	11	24%	121	28%
どちらでもない	118	41%	41	40%	21	47%	180	41%
あまり思わない	53	18%	9	9%	7	16%	69	16%
そう思わない	18	6%	5	5%	2	4%	25	6%
有効回答数	290	100%	102	100%	44	98%	436	100%
無回答	0	(0%)	0	(0%)	1	(2%)	1	(0%)
計	290		102		45		437	

他大学の学生・教員とのネットワークができた

表22

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
そう思う	110	38%	30	29%	16	36%	156	36%
思う	94	32%	39	38%	15	33%	148	34%
どちらでもない	50	17%	22	22%	10	22%	82	19%
あまり思わない	20	7%	7	7%	2	4%	29	7%
そう思わない	16	6%	4	4%	1	2%	21	5%
有効回答数	290	100%	102	100%	44	98%	436	100%
無回答	0	(0%)	0	(0%)	1	(2%)	1	(0%)
計	290		102		45		437	

11. 実習を終えた今の自分が社会に出る際に不安だと思うこと
 ビジネスマナーや話し方など

表23

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
不安だ	53	18%	24	24%	4	9%	81	19%
やや不安だ	94	32%	30	29%	14	31%	138	32%
どちらでもない	83	29%	28	27%	13	29%	124	28%
そんなに不安ではない	49	17%	18	18%	12	27%	79	18%
不安ではない	11	4%	2	2%	1	2%	14	3%
有効回答数	290	100%	102	100%	44	98%	436	100%
無回答	0	(0%)	0	(0%)	1	(2%)	1	(0%)
計	290		102		45		437	

職場の人との人間関係など

表24

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
不安だ	42	14%	14	14%	4	9%	60	14%
やや不安だ	73	25%	22	22%	10	22%	105	24%
どちらでもない	77	27%	28	27%	16	36%	121	28%
そんなに不安ではない	66	23%	30	29%	13	29%	109	25%
不安ではない	31	11%	8	8%	1	2%	40	9%
有効回答数	289	100%	102	100%	44	98%	435	100%
無回答	1	(0%)	0	(0%)	1	(2%)	2	(0%)
計	290		102		45		437	

スキルや専門知識など

表25

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
不安だ	57	20%	19	19%	8	18%	66	15%
やや不安だ	112	39%	37	36%	12	27%	143	33%
どちらでもない	79	27%	26	25%	14	31%	130	30%
そんなに不安ではない	34	12%	19	19%	9	20%	69	16%
不安ではない	7	2%	1	1%	1	2%	27	6%
有効回答数	289	100%	102	100%	44	98%	435	100%
無回答	1	(0%)	0	(0%)	1	(2%)	2	(0%)
計	290		102		45		437	

体調管理など

表26

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
不安だ	22	8%	7	7%	4	9%	33	8%
やや不安だ	33	11%	17	17%	9	20%	59	14%
どちらでもない	83	29%	27	26%	11	24%	121	28%
そんなに不安ではない	67	23%	24	24%	13	29%	104	24%
不安ではない	84	29%	27	26%	7	16%	118	27%
有効回答数	289	100%	102	100%	44	98%	435	100%
無回答	1	(0%)	0	(0%)	1	(2%)	2	(0%)
計	290		102		45		437	

12. インターンシップの各種事項に関する満足度について（抜粋）

事前学習・事後学習※プログレスコースは「担当教員の関わり方・意見交換等」にて集計した。

表27

	ビジネス		パブリック		プログレス ※		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
非常に満足	64	22%	24	24%	16	36%	104	24%
かなり満足	101	35%	24	24%	15	34%	140	32%
やや満足	68	24%	36	35%	8	18%	112	26%
やや不満	38	13%	11	11%	5	11%	54	12%
かなり不満	13	5%	6	6%	0	0%	19	4%
非常に不満	4	1%	1	1%	0	0%	5	1%
有効回答数	288	100%	102	100%	44	100%	434	100%
無回答	2	(1%)	0	(0%)	1	(0%)	3	(1%)
計	290		102		45		437	

実習日誌による記録

表28

	ビジネス		パブリック		プログレス		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
非常に満足	82	28%	26	25%	15	34%	123	28%
かなり満足	84	29%	24	24%	9	20%	117	27%
やや満足	84	29%	29	28%	6	14%	119	27%
やや不満	30	10%	17	17%	11	25%	58	13%
かなり不満	6	2%	5	5%	3	7%	14	3%
非常に不満	3	1%	1	1%	0	0%	4	1%
有効回答数	289	100%	102	100%	44	100%	435	100%
無回答	1	(0%)	0	(0%)	1	(0%)	2	(1%)
計	290		102		45		437	

受入れ先での実習内容※プログレスコースは「プロジェクト内容」にて集計した。

表29

	ビジネス		パブリック		プログレス ※		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
非常に満足	108	37%	34	33%	19	43%	161	37%
かなり満足	83	29%	28	27%	17	39%	128	29%
やや満足	56	19%	26	25%	6	14%	88	20%
やや不満	29	10%	11	11%	2	5%	42	10%
かなり不満	8	3%	3	3%	0	0%	11	3%
非常に不満	5	2%	0	0%	0	0%	5	1%
有効回答数	289	100%	102	100%	44	100%	435	100%
無回答	1	(0%)	0	(0%)	1	(0%)	2	(1%)
計	290		102		45		437	

事務局の対応

表30

	ビジネス		パブリック		プログレス		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
非常に満足	69	24%	18	18%	6	14%	93	21%
かなり満足	84	29%	29	28%	15	34%	128	29%
やや満足	89	31%	35	34%	14	32%	138	32%
やや不満	39	14%	15	15%	8	18%	62	14%
かなり不満	2	1%	4	4%	1	2%	7	2%
非常に不満	5	2%	1	1%	0	0%	6	1%
有効回答数	288	100%	102	100%	44	100%	434	100%
無回答	2	(1%)	0	(0%)	1	(0%)	3	(1%)
計	290		102		45		437	

インターンシップ・プログラム全体

表31

	ビジネス		パブリック		プログレス		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
非常に満足	92	32%	32	31%	17	39%	141	32%
かなり満足	107	37%	38	37%	17	39%	162	37%
やや満足	62	21%	21	21%	8	18%	91	21%
やや不満	25	9%	10	10%	2	5%	37	9%
かなり不満	3	1%	1	1%	0	0%	4	1%
非常に不満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
有効回答数	289	100%	102	100%	44	100%	435	100%
無回答	1	(0%)	0	(0%)	1	(0%)	2	(1%)
計	290		102		45		437	

Ⅲ. 受講生アンケート自由記述(抜粋)

自由記述については、基本的に原文をそのまま掲載した。ただし、誤字・脱字および個人名・企業名等特定される個所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

ビジネス・パブリックコース

プログラム全体

- 他大学の方々と交流できたことにより、モチベーションが上がったと思います。
- インターンシップでは実習においては有意義な活動が出来た。考えや理解が深まり、自分の将来について具体的に考えることができ、実習が終わった今、実際に行動に移し、将来の目標のためのスタートを、周囲に比べれば遅いかもかもしれないが、きることができた。
- 将来の目標やこれからの課題なども見つかри、今後の大学生活を過ごしていく上で、自分自身を見つめる機会が出来たと思います。なので、すごく充実した期間であったと思います。
- インターンシップを通して、「社会人とは」や「働くこと」についてわかったし、以前より具体的なイメージを持てるようになった。
- 実際の職場を通して社会に対する訓練を受けることができました。実習に関する反省を踏まえ、さらなるステップアップができるようがんばります。
- インターンシップの期間中では、とても多くのことを学びました。スキルアップにつながったと思います。
- コンソーシアムの方々や受け入れ先の方なしには今回のインターンシップは実現できないものでした。自分に関わってくれた方々に感謝したいと思います。ありがとうございました。
- 進路決定のよい材料になった。
- 目に見えて貢献できたことは少ないと思いますが、なるだけ人と話すこと、人の話を聞くことを大切にしていました。そのことが何かの役に立てばいいと思います。
- 自分に必要なスキルを身に付ける場として、とてもよい経験をさせていただきました。
- パブリックコースを選択できるこの貴重なインターンシッププログラムに参加でき、今年の夏休みは大変有意義なものとなった。自分の実力を把握できたことで、就活をはじめるまでに何をすべきかを理解したことで、大きく成長できた。
- サポートがしっかりしていたので心強かった。いろんな人に支えられて、無事インターンシップを終えることが出来た。
- 自分を振り返るにあたり、日誌制度は良いと感じた。
- 大変貴重な経験をさせていただきました。今回で発見した課題や、得た知識を用い、より良い今後の生活にしたいと思います。ありがとうございました。
- インターンシップを通して、仕事は楽しい事もあれば楽しくないことももちろんあるということを身を持って知ることが出来た。だが、楽しくない仕事も誰かがやらなければならないので、どうせやるのなら、嫌々やるのではなく進んでやっていけるようになりたい。
- とてもためになりました。参加できてよかったです。
- 良い体験ができた。今後の就職活動に向けて、今回のインターンシップを経て、身に付いたものを活かしたいと思う。
- レクチャーが多くあって、とても充実感がありました。
- とても良い経験が出来ました。将来のことについて考えるだけではなく、自分の人間性に何が足りないのか、考え直

- す機会となりました。ただ、事前・事後学習において、ゼミの時間が長すぎるのではないかという気もしました。
- 仕事や行政は奥が深く、21日学んだだけではわからない。後は実践で学びたい。
 - 良い経験をする事ができた。今後、就活に生かしたい。
 - インターンシップでたくさんの人と知り合い、他大学の友人、同じ職種希望の人と出会い交友関係が深まりました。尊敬できる人もたくさんできました。
 - 自分の知らない社会の一面を見たりすることが出来たので、これを自信として、就職活動や大学生活といった場面で用いていきたいと思います。
 - 5月の出願から始まり、9月までの長時間をかけてプログラムを進行していきました。そのことにより、就職活動への意欲が上がり、就職に対する不安を共感し合える仲間が出来たことは自分にとってものすごく大きな財産になりました。
 - とても貴重な体験でした。今回の経験をこれからの学生生活や就職活動に活かしていきたいです。
 - 社会人になる前に、責任ある行動をとらなければならないと、実感できたことは良かった。インターンシップに参加し、自己分析しやすくなったことは今後の大きな決定になると思う。
 - 今回のインターンシップを経験し、取引先の企業様について内側を見ることが出来た以外にも、社会人としての常識、学生との違いを分かることが出来、とても濃い時間を過ごすことが出来た。
 - 職業体験だけではなく、社会人として必要なことやどのように学生生活を送ればよいのかということまで勉強になりました。
 - インターンシッププログラムに参加して良かったと思います。自分の中にあった不安のようなものが少なからず無くなりました。
 - 6月から約3か月間、事前・事後学習を含め、すごく濃厚で、貴重な時間を過ごすことが出来ました。これは、今後の学生生活、就職活動に大きな意味を持つと思います。これからも、この気持ちを忘れないようにしていきたいです。
 - こういう業務をするにあたって、自分はこういう感情を抱くのだという自分を見つめ直すことが出来たと思います。
 - 大学コンソーシアム京都の皆さまへ、このようなインターンシップ事業を提供していただき大変感謝しております。自分自身を見つめ直しスキルアップできる良い機会になりました。ありがとうございました。
 - 色々な活動を参加させていただき、自分の目標ができて、満足です。
 - 事前学習や事後学習があるからこそ、きちんとした準備や振り返りが出来たと思います。全体を通して、自分の就職活動や働くとはどのようなことか考える絶好の機会となりました。これを活かしてさらに成長していきたいです。
 - 反省のプログラムがしっかりしており、自身を見つめ直す機会になった。
 - 指導教員の先生に本当に良くして頂き、感謝しています。また、受け入れ先の方々も優しく、実習に集中できる環境を作ってくれ、充実した実習となりました。希望の進路に一歩一歩ではありますが、進み続け、夢を実現させると決意しました。
 - 貴重な体験が出来、充実した夏休みを過ごすことができた。
 - 実習を振り返る作業をクラス内でできて良かった。
 - 多彩な受け入れ先が用意されていてよかった。アルバイトでは体験できないだろうことが経験できてよかった。受け入れ先の方のコメントは明日もがんばろう！という気持ちにさせてくれ、読むのが楽しかった。
 - インターンシップ実習は就職活動をこれから行ううえで、非常に重要なステップだと思いました。
 - 今回学んだことは今後活かしていきたい。
 - インターンシップでは会おう人、全ての人が、初めて会う人なので、コミュニケーション能力を養ううえで良かったと感じる。また、事前学習・事後学習をすることで、理解を深め考察できるので、必要だと考える。

○インターンシップに参加して、自分に足りないものや、今後何をしていくべきか知れたので良かったです。とてもよい経験になりました。この経験を生かして今後就活などに取り組んでいきたいと思います。

事前・事後学習

- 事後学習は、自分がいけなかった受け入れ先のことも知れて非常に満足している。
- 講義時間に対し中身が薄かった。教員の先生方だけでなく、企業の方のお話を聞く機会がもっとあれば尚よかった。
- 業界が違う人と一緒だったので色々勉強になった。
- 事後学習の時間が適切ではなかったような気がする。4 時間近くあったが、3 時間ほどで良かったと思う。インターンシップの後に、他の実習先だった学生と情報が共有できたので良かった。
- 事前・事後学習の内容がクラスによって違いすぎる。
- インターンシップの実習だけでなく、事前・事後学習では、刺激をしあえる仲間にあえて、大学を越えて友達が出来たところも良かった。
- 事前学習があって、実習に気持ちが入りやすくてよかった。
- 事前・事後レポートをコーディネーターに見て頂く時間を、プログラム内でもう少し設けてほしいと感じました。
- 事前学習はわかりやすくて勉強になりました。が、すでに知っていることもありました。インターンシップ生全員集まる時の説明で、ただプリントに記載された文を読むだけだと、時間と人数の多さから、だれてしまうような気がしました。
- 他大学の方々と交流できたことにより、モチベーションが上がったと思います。方々と交流することが出来て、刺激を受けることが出来た。
- インターンシップを総合的に考えれば、良い体験であったが、事前事後学習があまり役に立っていなかったと思う。
- 私のクラスは私一人しかその業界へ実習に行く人がおらず、事前・事後学習ともにどことなく自分だけ浮いている気がして嫌だった。
- 事前・事後学習では他の学生の意見を聞くことが出来たのでよかった。
- 実習はもちろん、クラス発表がとても良い機会となりました。
- 他大学の人たちと交流することが出来たので良かった。
- 事前学習が長時間・スーツで、回数も多い割には、そこまでインターンで役に立たなかった(アルバイトの研修ですでに習っていたことと重なったというのは大きい。)クラス分けして、同じメンバーでワークに取り組むのは良かった。
- 事前学習・事後学習まで綿密に組まれたもので、大変満足でした。
- 事前学習・事後学習があるのでコーディネーターの先生やクラスのメンバーと意見を言い合えるのは、とても良いと思います。マナー講習に加え、手紙やメールの書き方講座があるとより良かったです。昨年の経験者にお話を伺う機会もさらに多いと学生にとっては心強いです。また、土曜日は授業がある学生もいるため、日曜日に設定すると受講生が増えると思います。
- 事前研修から実習、事後研修にわたるまでの流れがよく組み上がっていると感じました。
- 受け入れ先の企業には様々な体験をさせていただき感謝している。より多くの方がインターンシップをできるようになればより良くなると思う。
- とても良いプログラムだと思います。担当コーディネーターも良い方で非常にためになりました。
- 自分のゼミのクラスはよかったです。友人のクラスは指導内容が私のクラスよりも甘かったようなので、残念がっていました。
- インターンシップの出願から事後学習レポートまでの期間が長すぎる。様々なプログラムが用意されているためにな

ったものもあるが、中にはマンネリ化していてもはやその目的が何なのかが不明なうえ、分かりにくいものもあった。来年の参加者の為に改善すべきだと思う。担当コーディネーターのお話は自分たちの成長につながるものばかりで、ゼミ生は感謝していると思う。学生が自分の意見を述べたり発表を行う時間はもちろん大切だが、先生のお話を聞く時間の方がもっと必要だと感じた。

- 実際に会社という場所で働ける機会が、本当に良い経験になりました。今後の就職に大きなきっかけとなりました。コーディネーターの先生の指導方法を統一してほしいです。予定と違っていたりして困りました。
- インターンシップに行く前に事前学習としてマナー講習や電話対応の仕方など教えて頂き、身に付ける事ができたので良かったです。
- ロジカルシンキングの講習は、今後論文などを書く上でも有用になるので、講習を受けて良かったです。
- 敬語でもっと実践する形で、本当に働くときに、敬語を使って話せるように、もっとトレーニングする必要があると思う。
- 社会人マナーの重要性が知れました。学生の環境では言葉遣いなど改善することが難しいが、自分の中で意識して臨もうと思いました。
- コミュニケーショントレーニングの内容が座学中心で、実践があまりなかったのが残念だった。インターンシップでは、今までにない経験が出来たので非常に面白かった。
- 事前学習・事後学習で先生がお礼状のフォローをしてくださったので、良かったです。できればコンソーシアムのプログラム自体の事前学習に盛り込んでほしかったです。
- インターンシップを通じて自分がどの業種に向いているのか少し理解でき、また実習先で様々な体験が出来たので、今回参加してよかったです。マナー講座が実習先と連絡取る際に役に立ったので、学べてよかったです。
- 業界別のクラス分けではない方が、もっといろんなことを知れるし、違った視点をたくさん持てると思います。
- 全体的にとっても楽しかったのですが、事前学習や事後学習など少し一日に詰めすぎではないかと思いました。
- 最終日の修了式と懇親会が不要と感じた。

受入れ先

- 出願する受入れ先を選択する時点で、実習日程が明確になっていないと予定が組めないで、選びづらかった。
- 受入れ先の説明で、昨年その会社でインターンをした人の意見があれば、しっかり選択できると思います。
- 受け入れてくださる年代の方々にはインターンシップになじみがあまりない方が多かったことが印象に残った。そのため、予定を決めてくださってはいいたが、内容に不安を持っておられる方も見受けられた。
- 事前に聞いていた担当者の方と、実際に担当してくださった担当の方が違って、少し戸惑った。
- インターンシップに参加して、実際に社員の一人として企業で働く体験をすることが出来て良かった。「営業」を自分の目で見たかったのでインターンに参加することを決意したが、夏期休暇(8~9月)中はあまり営業活動がないとのことで、ほぼ見る事が出来なかった。
- 実習内容については、事前の説明に不足がなく、実際行ってみても自分に合った内容で良かったですが、社会貢献のためにやっていることだとわかり、就活にはあまり役立たなかったかもしれないと思いました。普段は全く関わりのない学部の人達の考え等も知れてよい学びになりました。
- 受入れ先の募集要項に書かれていた実習内容と、実際の実習内容が大きく違っていたのが残念だった。
- 企業側の都合もあるが、もう少し詳しく実習期間を定めてほしかった。事後学習はいい取り組みだと思います。今回のインターンは自分の将来を考えるにあたって非常にいい経験になったと思います。
- 他の実習先の話も聞いて良かった。私の実習先は熱心に私たちと向き合ってくださったので、大変嬉しかった。だが、

場所によっては対応の差もあったようだ。せっかく実習に行くのであれば、積極的に自分の課題を取り組める環境下の方が良い。その面では、良いインターン実習先へ行くことが出来たと思う。

- 実習先によって得られることはさまざまであることが分かった。
- 企業側からの評価も少しは知れたら、今後の道しるべにもなると感じました。
- 実習先の方によりシビアな評価を頂きたいと感じた。実習日誌でのやりとりだけでなく、実習後に点数化したかたちで評価がほしい。
- 実習開始日とテスト日程が被ってしまったので、そこは改善していただければと思った。

実習

- 参加したプログラムはプレゼンの作成が中心だった。自分はプレゼン作成の際、すべて自分でやってしまいがちという悪い癖があるが、今回は周りとの協力することによって、自分でもより良いものが出来たと思う。今後はもっと相談する時間を持つと思う。
- 働くということが実感できたので、とても有意義な時間となった。今後の学生生活に今回の経験を活かしていきたい。
- インターンシップの期間中、私は毎日がとても速く過ぎていくと感じていました。受け入れ先も何日間もインターン生を受け入れることは難しいかもしれませんが、今後パブリックコースだけでなく、ビジネスコースでもさらに長期間の実習が出来たらと思います。とても勉強になった14日間でした。
- 10日間や5日間のインターンシップでは、実習先の表面部分しか見えないので、1か月くらいがちょうどいいと感じた。
- 行政のインターンはなかなかできない事なので、貴重な機会を頂き、ありがとうございました。
- 1か月という短い期間ではありましたが、とても自分の為になるよい経験をする事が出来ました。この経験を、今後の就職活動に大いに役立てていこうと思います。
- 実習内容に少しの不満もなく、終えられて良かったです。
- 実習時間が少し長くて、大変だった。
- インターンシップが何なのか分からなくなりました。勿論、私たち学生から受け入れをお願いして実習に入りましたが、ただただ大量の雑務と肉体労働をして精神的に少し参ってしまいました。しばらく就活のことは考えたくありません。
- アルバイトのような仕事が多く2〜3時間何も仕事がないという状態もありました。無理矢理10日間に行っているように感じた。
- もう少し実習先から外に出たりすると思っていました。しかし、良い体験ができたので良かったです。
- 仕事の厳しさや業種は理解できたが、楽しいというよりは大変で長く感じました。
- 実習期間はどこでも2週間以上あった方がより仕事を実感できるし、得することもあると思いました。
- インターンシップの最中、遅刻をしてしまった時があったので、そこは反省したい。

その他

- 中間指導と同じような時期に、ゼミのみんなと意見交換が行える機会があっても良いと思う。
- 事前・事後学習の時間が少し長いのではと思いました。もう少し面接の時間や内容を濃くして、インターンに送り出す人の選抜に時間をかけて見た方が良いと思う。
- レポートの提出日を長くした方が良い。

- 事前・事後レポートは、郵送やインターネットでも提出可能になれば便利だと思う。
- 事前・事後学習の日はそれぞれ一日ずつで十分ではないかと感じた。レポートの提出は別日に設定せず、事後学習日にまとめてもいいのではないか。
- 企業毎に、昨年度インターンシップ実習日程の実績が分かる方が学生は出願しやすいと思う。
- 受け入れ先について、実習へ行くまでのイメージと実際に働いた時のイメージに差異があったので、受け入れ先の情報をもう少し始めのうちに知りたかった。
- 周りの人に恵まれました。同じゼミの仲間、ゼミの担当の先生、受け入れ先の方々、担当者の方。本当に良い経験でした。何より楽しかったです。ありがとうございました。より広い視点で学ぶためにビジネスもパブリックも混ぜてほしいと思った。
- 他業種でのインターンシップ内容についても知る場や方法が欲しかったです。
- インターンシップの質は、事前、事後学習や実習先によって変わること気づきました。今後とも続けてほしいと思った。

プログレスコース

- 子どもの前では笑って元気な先生も、実は色々悩んでいることを知れました。ボランティアでは経験できないことを経験できたので、すごくいい実習でした。
- プレゼンの時間が少なくて悔しかったです。でも、それが社会だと受け止め、勉強になりました。
- 自分の課題や社会に出ていくために必要なものを見つけることができました。
- このプログラムは絶対に大学では体験できないということを改めて強く思った。この活動で得たことを必ずや、どこかの現場または自分の将来に生かしていきたい。
- 初めのうちは企業と教職は違うと感じ別々で進めてほしいと思っていたが、数を重ねるごとに互いに学びあう事があり、一緒にできてよかったと強く思う。
- 非常に密度の濃い貴重な 6 カ月間を過ごせ、よかったです。改めて、このような貴重な機会をいただいたことに感謝します。
- 社会人として、立派になるためのステップだと感じながら実習・研修ができてよかった。なぜなら、自分がより将来に興味をもち、職業について意欲を沸かせることができたからです。
- ここまで自分自身良い経験になるとは思っていなかった。最初はこのプログラムを受ける気はなかったが、ぎりぎりまで背中を押してくれた友人や先生に感謝したい。
- ワークシートを用いたプロジェクト形式は分からない。コミュニケーション、プレゼントレーニングで実践があれば良かったが、開いているだけでは無駄だと思う。他プロジェクトの交流がもっと欲しい。受け入れ先が最高だった。
- 長期間のインターンシップを行うことで、本当の職場体験が出来たと思う。すごく良い環境で多くのことを学び、反省し、良い経験になりました。
- 受け入れ先が成長できる環境を作っていたのに、自分が受け身な状態であったので、成長する可能性をふさいでしまった。悔しい気持ちで一杯です。この悔しい思いをもう二度と味わうことのないように、これからの大学生活を送ってきたい。
- 自分自身の甘さを強く感じる事ができた。いい経験でした。
- 貴重な経験のできる場なので、是非もっと多くの学生に知ってもらいたいです。
- 参加することができて良かったです。自分の力試しができました。

- 実践を通し、就職したいという気持ちが高まったのでよかったです。
- 長期のプログレスコースに参加して、本当によかったです。自分の力不足を感じこれからの課題が分かりました。
- 企業ごとのつながりをなかなか持てなかった(自分がかかわりを進んで持とうとしなかったこともあるかもしれませんが)ように感じた。もっと意見交換の場があれば、よりこのインターンが活発になっていくと思います。
- インターンにきていなければ、何も特にはしていなかったと思います。インターンに行っておたくさん学べてよかったです。
- 今回でのインターンで自分が変わったことにはとても意味があり、中でもそれが自分の力だけでなく周りで協力してくれた方々がいたことが、一番変わることができたきっかけだと思います。
- 今回のプログレス・インターンシップは、1週間程度のインターンシップでは体験できないような体験ができた。
- 半年というやや長いインターンシップではありましたが、様々な刺激をもらえることができました。そして、自分自身を見つめ直す良い機会にもなり、このインターンシップに入っていなかったらいつまでたっても殻にこもりっぱなしだったと思います。ありがとうございました。
- 学生生活でこんなに疲れる半年はなかった。本当に貴重な経験を得ることが出来て、参加してよかったと思う。
- 皆さん親切にしてくださって、不安な気持ちが和らぎました。ありがとうございました。
- 実際に自分たちの企画で金銭のやり取りが行われ、自分たちの対応次第で赤字黒字やクライアントとの関係の良しあしが変わるビジネスを体験させていただき、仕事とは、働くとは、と何度も考える機会を持てたことを有難く思います。

第4章 受講生意識調査集計結果

＜アンケート実施日＞

ビジネスコース	2013年7月6日(土)／2013年9月28日(土)
パブリックコース	2013年7月6日(土)／2013年9月28日(土)
プログレスコース	2013年7月4日(木)／2013年10月31日(木)

	受講生数	事前アンケート		事後アンケート	
		回答数	回答率	回答数	回答率
ビジネスコース	303	284	93.7%	281	92.7%
パブリックコース	108	108	100.0%	99	91.7%
プログレスコース	45	42	93.3%	25	55.6%
合計	456	434	95.2%	405	88.8%

＜アンケート方法＞

就職に対する意識や自己理解に関する質問項目を設定し、実習の前後にそれぞれ同じ質問に回答する形式のアンケート調査を実施して(プログレスコースはプロジェクト開始前とプロジェクト終了後に実施)、実習前後における意識の変化およびインターンシップが与える影響についての調査を行った。

測定に用いた指標は表-1のとおりである。3つの質問事項をまとめて共通した意味を持つ10のグループにまとめ、10グループをさらに大きな共通項でまとめて3つの大グループを設定した。3つの大グループは社会人として仕事をするうえでの知識や心構えに関わる「就職レディネス」、自己管理能力の感覚に関わる「有能感」、自らの社会における立場をわかまえているかについて知る「自己主体性」からなっている。

また、各質問についてはそれぞれ「非常に当てはまる」を6点、「かなり当てはまる」を5点、「やや当てはまる」を4点、「やや当てはまらない」を3点、「かなり当てはまらない」を2点、「全く当てはまらない」を1点として、グループごとに平均点を算出し、グラフ化して比較した(表-2)。

インターンシップに関する意識調査

2013年 公益財団法人 大学コンソーシアム京都

学年 年次生 性別 1. 男性 2. 女性

次の項目は、あなた自身の現在の考えや状況にどの程度あてはまりますか。該当するものに○をして下さい。
一見似ている項目も意味内容が異なります。1項目ずつ考えてみてください。

1 全く当てはまらない
2 かなり当てはまらない
3 やや当てはまらない
4 やや当てはまる
5 かなり当てはまる
6 非常に当てはまる

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. 自分の自信につながる経験がある。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 2. 自分に欠けている部分をきちんと把握している。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 3. 自分の興味・関心について人に説明できる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 4. 責任を果たすことの大切さを心得ている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 5. やるべきことを実際、行動に移せる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 6. やるべきことを最後までやり遂げることができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7. 異なった状況や環境にうまく適応できる方だ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 8. いろいろな困難に耐えうる精神力がある。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 9. 自分の進むべき道を十分に認識している。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 10. 自分には何が向いているのかを知っている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 11. 自分は幅広く活動している方だ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 12. 今、規則正しい生活を送っている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 13. 現在の自分に不安を感じている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 14. 現在の生活に満足している。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 15. 広い視野で物事を見るようにしている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 16. いろんな角度から考えて、動くようにしている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 17. 緊張感のない日常を送っている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 18. 人それぞれの個性を認めることができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 19. 自分の将来に有益な知り合いがいる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 20. 人間関係を通して学ぶすべを知っている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 21. 職場の人間関係の難しさがある程度知っている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 22. 上司と部下の人間関係の複雑さを理解できる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 23. 仕事上の優れたリーダーシップのあり方が分かる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 24. 職業人としての礼儀、作法を心得ている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 25. 職場の人間関係がどのようなものかわきまえている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 26. 将来の進路に関して迷いがある。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 27. 働くことがどういうことか知っている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 28. 組織がどのように運営されているのかある程度わかる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 29. 社会の裏側にある汚い面がある程度知っている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 30. 社会はきれい事だけでは通用しないと心得ている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 31. 毎日休まず働くことができると思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 32. 自分は社会にとって必要な人間だと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 33. 与えられた仕事を上手くこなす自信がある。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 34. いつかは新しく会社をおこすことに参画する自信がある。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 35. 社会との繋がりがなしには自分は生きていけないことを知っている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 36. 取引先や顧客との関係の持ち方を心得ている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 37. 社会の一員としての自分を客観的に見ることができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 38. お金より自由な時間をもっと大切だと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 39. 人から言われる前に進んで仕事ができる方だ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 40. 学生のアルバイトと社会人の仕事は全く違うものである。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 41. 意識や考え方における社会人と学生の違いがわかる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 42. 定職に就かずフリーターとしてやっていくことはいやだ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 43. 職場に男女差別の問題があることを認識している。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 44. 今の社会では、女性が働き続けていくことは大変である。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 45. 成果の有無に関わらず努力している様子を評価されたことがある。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |

表-1. 意識調査の指標と平均点

			実習前								実習後								
			ビジネス		パブリック		プログレス		合計		ビジネス		パブリック		プログレス		合計		
				平均		平均		平均		平均		平均		平均		平均		平均	
就職 レディ ネス	A	職場の人間関係 への理解	職場の人間関係がどういものなかわきまえている。	3.89		3.80		3.81		3.87		3.98		4.11		4.33		4.03	
			仕事上の優れたリーダーシップのあり方が分かる。	3.75	3.78	3.74	3.77	3.83	3.78	3.76	3.78	3.94	3.92	3.94	3.93	4.52	4.38	3.98	3.95
			職業人としての礼儀、作法を心得ている。	3.70		3.78		3.69		3.73		3.86		3.74		4.28		3.85	
	B	組織で働くこと への理解	上司と部下の人間関係の複雑さを理解できる。	4.18		4.18		4.24		4.19		4.30		4.29		4.56		4.32	
			働くことがどういことか知っている。	3.67	3.78	3.63	3.76	3.69	3.85	3.67	3.79	4.10	4.09	4.11	4.09	4.36	4.39	4.12	4.11
			組織がどのように運営されているのかある程度わかる。	3.48		3.46		3.62		3.50		3.87		3.86		4.24		3.89	
	C	学生と社会人の区別	学生のアルバイトと社会人の仕事は全く違うものである。	4.73		4.91		4.76		4.78		4.77		4.96		5.36		4.86	
			意識や考え方における社会人と学生の違いがわかる。	4.00	4.65	4.12	4.77	4.07	4.71	4.04	4.69	4.43	4.80	4.41	4.84	5.04	5.21	4.46	4.84
			定職に就かずフリーターとしてやっていくことはいやだ。	5.22		5.29		5.31		5.24		5.20		5.14		5.24		5.19	
	D	ジェンダー問題 への気づき	社会の裏側にある汚い面をある程度知っている。	3.60		3.69		3.69		3.63		3.91		3.91		4.12		3.93	
			職場に男女差別の問題があることを認識している。	4.31	3.99	4.43	4.08	4.14	3.89	4.33	4.01	4.37	4.13	4.48	4.20	4.32	4.05	4.40	4.15
			今の社会では、女性が働き続けていくことは大変である。	4.06		4.13		3.83		4.06		4.10		4.21		3.72		4.11	
有能 感	E	実行力	やるべきことを実際、行動に移せる。	4.12		4.09		4.19		4.12		4.07		4.27		4.36		4.14	
			やるべきことを最後までやり遂げることができる。	4.55	4.18	4.36	4.01	4.57	4.17	4.50	4.14	4.51	4.19	4.54	4.27	4.88	4.41	4.55	4.22
			与えられた仕事を上手こなす自信がある。	3.88		3.56		3.76		3.80		3.97		3.99		4.00		3.98	
	F	環境適応力	異なった状況や環境にうまく適応できる方だ。	4.19		3.94		3.93		4.11		4.10		4.01		4.24		4.09	
			いろいろな困難に耐える精神力がある。	4.22	4.15	4.02	3.98	4.45	4.17	4.20	4.12	4.20	4.16	4.09	4.08	4.56	4.52	4.20	4.17
			人間関係を通して学ぶべきを知っている。	4.06		3.99		4.14		4.06		4.18		4.15		4.76		4.21	
	G	柔軟な物事の見方	広い視野で物事を見るようにしている。	4.07		4.06		4.40		4.11		4.22		4.06		4.84		4.22	
			いろんな角度から考えて、動くようにしている。	4.01	4.23	4.03	4.22	4.14	4.33	4.03	4.24	4.10	4.28	4.06	4.29	4.56	4.72	4.12	4.31
			人それぞれの個性を認めることができる。	4.62		4.56		4.43		4.58		4.52		4.76		4.76		4.59	
	H	生活規律	今、規則正しい生活を送っている。	3.52		3.39		3.29		3.47		3.76		3.49		3.64		3.69	
			毎日休まず働くことができると思う。	4.12	3.75	4.07	3.67	4.33	3.66	4.14	3.73	3.94	3.83	3.94	3.69	4.44	3.99	3.97	3.80
			取引先や顧客との関係の持ち方を心得ている。	3.61		3.55		3.36		3.58		3.78		3.63		3.88		3.76	
自己 主体 性	I	社会へのコミット感	自分は社会にとって必要な人間だと思う。	3.67		3.59		3.67		3.66		3.72		3.78		4.08		3.76	
			いつかは新しく会社をおこすことに参画する自信がある。	2.85	3.39	2.56	3.30	2.95	3.40	2.80	3.38	2.87	3.47	2.84	3.50	3.20	3.81	2.88	3.50
			社会の一員としての自分を客観的に見ることができる。	3.67		3.76		3.60		3.69		3.82		3.89		4.16		3.86	
	J	自己理解	自分に欠けている部分をきちんと把握している。	4.12		4.20		3.95		4.13		4.38		4.40		4.64		4.41	
			自分の興味・関心について人に説明できる。	4.15	3.95	4.12	4.03	4.38	4.17	4.17	4.00	4.12	4.06	4.16	4.11	4.64	4.56	4.17	4.11
			自分の進むべき道を十分に認識している。	3.58		3.78		4.17		3.69		3.68		3.76		4.40		3.75	

表-2. 意識調査結果(比較)

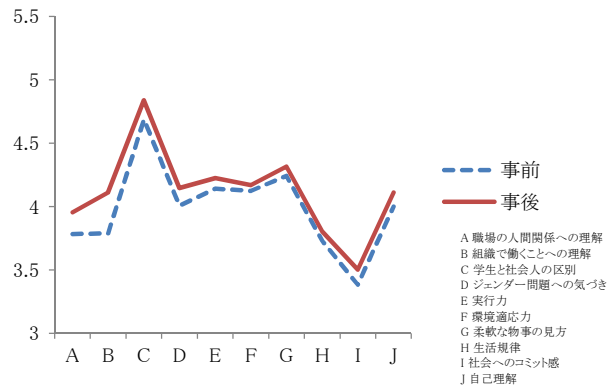
<全体>

実習前から意識の高い指標は、C「学生と社会人の区別」である。これは、インターンシップにおける受講生の成長目標と合致している。

また、事前学習においても、特に注力して取り組んでいる項目であり、その成果が表れたものといえる。

反対に、意識の低い指標は、「社会へのコミット感」であり、特に「いつかは新しく会社をおこすことに参画する自信がある」という指標においては意識の低さが目立つ結果となった。

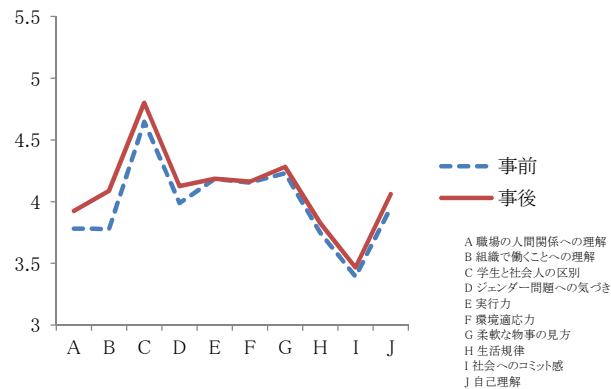
実習後に意識の変化が大きく表れたのは、B「組織で働くことへの理解」である。



<ビジネスコース>

ビジネスコースにおいて、実習後にもっとも変化したのは、B「組織で働くことへの理解」である。反対に、変化のなかった項目としては、E「実行力」があげられ、他のコースでは比較的高い伸び率となっているのに対し、当コースではほぼ変化が見られない結果となった。

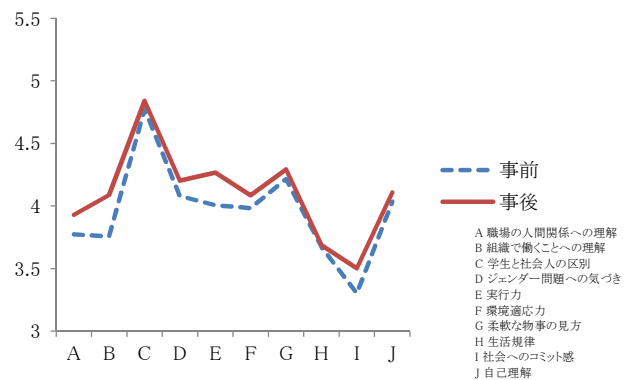
また、当コースのみ、自己主体性の変化が有能感の変化を上回る結果となった。



<パブリックコース>

パブリックコースにおいては、B「組織で働くことへの理解」で意識の変化が大きく、次ぐE「実行力」については、全コースの中で、もっとも高い伸び率となった。

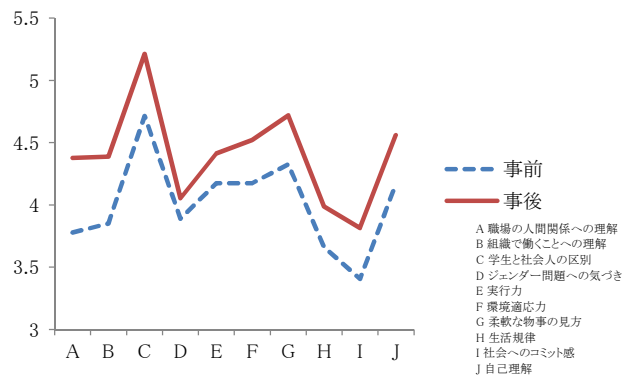
反対に、変化がなかった項目としては、H「生活規律」があげられ、F「環境適応力」と併せて、他コースと比べて、もっとも意識の低い結果となった。



<プログレスコース>

プログレスコースにおいては、A「職場の人間関係への理解」・B「組織で働くことへの理解」の意識の変化が大きく、プロジェクトを通してリーダーシップのあり方を知り、組織で働くことに対する意識を高めるといふ効果を上げることができたといえる。

また、指標においては、C「学生と社会人の区別」の、意識や考え方における社会人と学生の違いがわかるという項目で、0.97ポイントと最も高い伸び率となった。



資料編

資料1. 出願・受講関係データ(コース別、学年別、男女別、大学別)

資料2. 参加団体・出願者・受講者・コーディネーター数の推移

資料3. ビジネスコース・パブリックコース 講義概要(シラバス)

資料4. ビジネスコース・パブリックコース コーディネーター一覧

資料5. プログレスコース 講義概要(シラバス)

資料6. プログレスコース プロジェクト別コーディネーター一覧

資料7. エントリー企業・団体一覧

資料8. インターンシップ研究会

資料9. 大学コンソーシアム京都加盟大学一覧

資料1. 出願・受講関係データ(コース別、学年別、男女別、大学別)

1) コース別 出願者数・登録団体数と受講率

コース名	学生			企業・団体		
	出願者数	実習許可者数	受講率	登録団体数	受入れ団体数	受入れ率
ビジネス	580	303	70.9%	176	150	85.2%
パブリック		108			44	
プロGRESS	47	45	95.7%	11	7	63.6%
合計	627	456	72.7%	245	201	82.0%

2) 学年別 出願者数と受講率

学年	出願者数		実習許可者数		受講率
	人数	全体に占める割合	人数	全体に占める割合	
1年次(回生)	2	0.3%	1	0.2%	50.0%
2年次(回生)	72	11.5%	55	12.1%	76.4%
3年次(回生)	537	85.6%	385	84.4%	71.7%
4年次(回生)	8	1.3%	8	1.8%	100.0%
5年次以上(回生)	1	0.2%	0	0.0%	0.0%
大学院生	7	1.1%	7	1.5%	100.0%
合計	627	100.0%	456	100.0%	72.7%

3) 男女別 出願者数と受講率

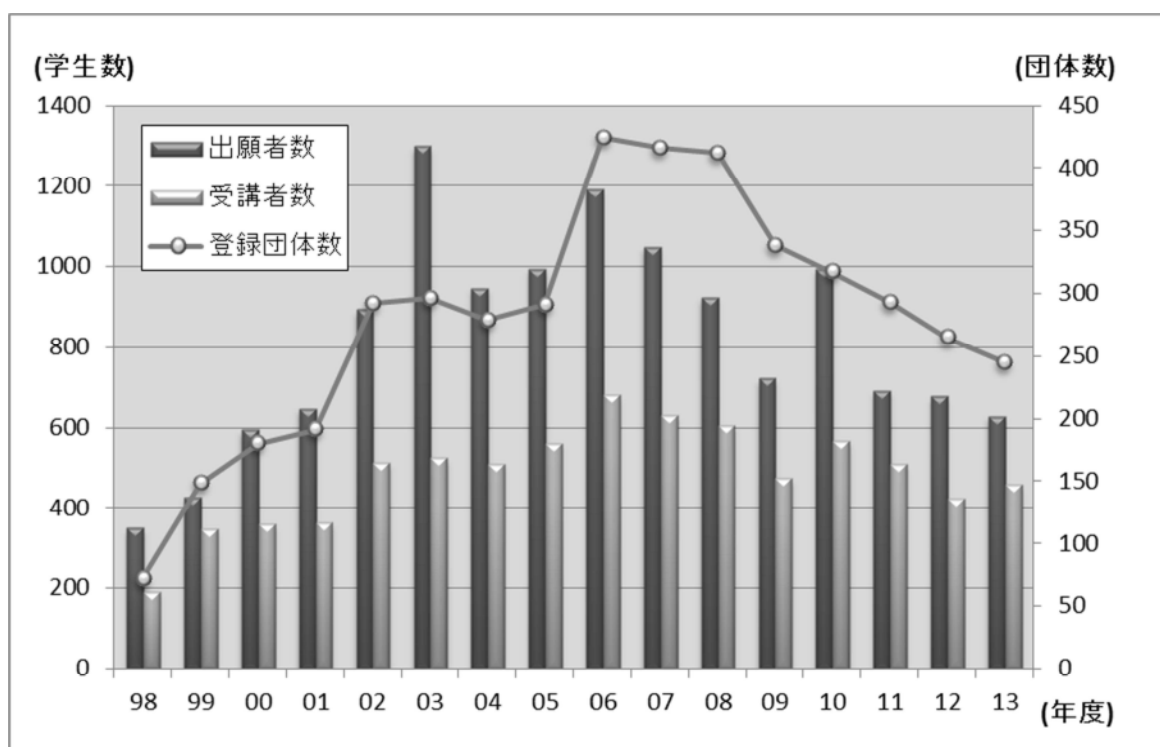
	出願者数		実習許可者数		受講率
	人数	全体に占める割合	人数	全体に占める割合	
男性	288	45.9%	195	42.8%	67.7%
女性	339	54.1%	261	57.2%	77.0%
合計	627	100.0%	456	100.0%	72.7%

4) 大学別 出願者数

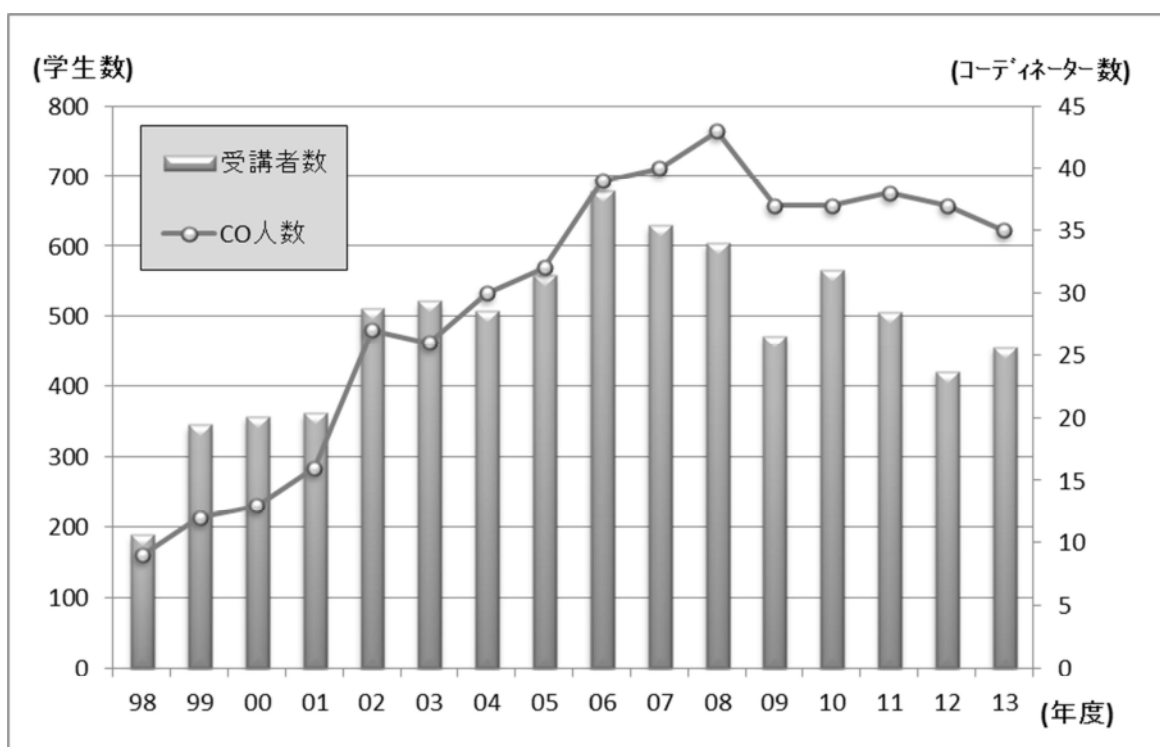
		大学名	出願者数			大学名	出願者数
加盟大学		京都大学	5	加盟大学	京都美術工芸大学	0	
		京都教育大学	4		京都文教大学	25	
		京都工芸繊維大学	4		京都文教短期大学	0	
		京都市立芸術大学	0		京都薬科大学	1	
		京都府立大学	22		種智院大学	0	
		京都府立医科大学	0		成安造形大学	7	
		池坊短期大学	0		成美大学	0	
		大谷大学	17		成美大学短期大学部	0	
		大谷大学短期大学部	0		同志社大学	105	
		華頂短期大学	0		同志社女子大学	17	
		京都医療科学大学	0		花園大学	3	
		京都外国語大学	1		佛教大学	7	
		京都外国語短期大学	0		平安女学院大学	2	
		京都学園大学	18		平安女学院大学短期大学部	0	
		京都華頂大学	0		明治国際医療大学	0	
		京都経済短期大学	0		立命館大学	41	
		京都光華女子大学	11		龍谷大学	216	
		京都光華女子大学短期大学部	0		龍谷大学短期大学部	0	
		京都嵯峨芸術大学	2		大阪成蹊大学芸術学部	0	
		京都嵯峨芸術大学短期大学部	0		大阪医科大学	0	
		京都産業大学	36		放送大学 京都学習センター	0	
		京都女子大学	40		非加盟大学	大阪大学	1
		京都女子大学短期大学部	0			関西大学	2
		京都精華大学	2			追手門学院大学	1
		京都西山短期大学	0			滋賀県立大学	2
		京都聖母女学院短期大学	0			びわこ成蹊スポーツ大学	2
		京都造形芸術大学	7			長浜バイオ大学	2
		京都橘大学	13			出願者総数	627
		京都ノートルダム女子大学	11				

資料2. 参加団体・出願者・受講者・コーディネーター数の推移

参加団体数と出願者・受講者数の推移



受講者数とコーディネーター数の推移



	日程	時間	会場	コマ数	講義名	講義形式	目標	内容	
事前学習	2013/6/15(土)	10:00～11:00	龍谷大学	第1講	オリエンテーション：実習参加の心構え	全受講生合同	インターンシップの目的・趣旨・注意点の理解促進	プログラムの概要や、プログラムに臨む心構え等を説明します。	
		11:10～12:40		第2講	クラスの相互理解	ゼミ	クラスメンバーの相互理解	クラスに分かれ、担当教員を中心として、クラスメンバーの紹介をします。	
		13:40～15:10		第3講	実習に向けた目標と仮説設定 ＜グループディスカッション＞		実習目的の明確化、仮説の設定	グループディスカッションを中心として、実習目標と仮説設定のための意見交換を行います。	
		15:30～16:30		第4講	コミュニケーショントレーニング		就業意識の向上、ビジネスマナーの基本、 コミュニケーション能力等の習得	就業意識の向上、ビジネスマナーの基本、対人関係の中でのコミュニケーション能力等について、専門講師を招いて講習します。	
		16:40～18:10		第5講					
	受入れ先事前訪問期間：原則6月17日(月)～6月28日(金)の間に実習先を訪問し、実習内容・期間の確認や、事前学習レポート作成に向けてアドバイスなどの指導を受けます。								
	2013/6/29(土)	10:00～11:00	龍谷大学	第6講	スキルアップトレーニング	特別クラス編成	ロジカルシンキングの獲得	ロジカルシンキングの獲得を目指し、専門講師を招いて実践的理論を学びます。	
		11:10～12:40		第7講					
		13:40～15:10		第8講	業界と社会に対する学習① ＜ゲストスピーカーの講演＞	ゼミ	業界情報の理解促進、実習先での実習イメージの明確化、受入れ先情報収集	受入れ先担当者や修了生等のお話をもとに受入れ先について探求し、事前学習レポートの内容を深めます。	
		15:20～16:50		第9講	業界と社会に対する学習② ＜ディスカッション＞				
	2013/7/6(土)	10:00～11:30	龍谷大学	第10講	実習に向けた目標と仮説設定① ＜グループディスカッションを通じた軌道修正＞	ゼミ	実習目的と仮説の修正、確定	事前学習の総まとめとして、最終的に実習目的を明確にします。また、事前学習レポートの書き方のポイントを学びます。	
		12:30～14:00		第11講	実習に向けた目標と仮説設定② ＜実習直前の相互確認＞				
		14:20～15:50		第12講	リスクマネジメント講習	全受講生合同	実習中のリスクの軽減、リスク管理の重要性の理解促進	実習中に留意しなくてはならないリスクについて学びます。	
16:00～17:30		第13講		オリエンテーション：実習にあたって	実習にあたっての最終の確認、意識喚起				実習にあたっての準備、確認・注意事項を説明します。
実習	実習の実施（原則として8月中旬～9月中旬の期間で実施されます。実習期間中に担当コーディネーターによる中間指導があります。）								
事後学習	2013/9/21(土)	9:00～10:30	キャンパスプラザ京都	補講	※クラスによって実施される場合があります	ゼミ			
		10:50～12:20							
	2013/9/28(土)	10:00～11:00	龍谷大学	第14講	実習における経験交流 ＜経験の共有①＞	ゼミ	実習の振り返り、経験の共有、成長点の認識、 仮説の検証、今後の学生生活への接続	実習において得たことや感じた課題等について相互に発表を行い、個々の体験をクラスで共有します。 それらに基づくディスカッションを通して仮説の検証を行い、また、事後学習レポートの内容を深めます。そのうえで、今後の学生生活の目標を明らかにします。	
		11:10～12:10		第15講	実習における経験交流 ＜経験の共有②＞				
		13:10～14:40		第16講	実習における経験交流 ＜グループディスカッションを通じた仮説の検証＞				
		14:50～16:20		第17講	今後の学生生活を考える ＜レポート作成に向けてのまとめ＞				
	16:40～17:10	第18講	全体講評 修了式	全受講生合同	最終のまとめと経験交流	全体による振り返りと修了証を授与します。			
17:20～18:00	懇親会				様々な人との交流・コミュニケーションを図る	受入れ先担当者・コーディネーター・受講生による懇親会 ※参加必須			
■注意 9月21日(土)は、クラスによっては9:00～12:10に補講を実施。 ※場所:キャンパスプラザ京都 ■事前学習レポート提出期間 7月12日(金) 10:00～17:00、13日(土) 10:00～17:00 ※場所:キャンパスプラザ京都 ■事後学習レポート提出期間 10月4日(金) 10:00～17:00、10月5日(土) 10:00～17:00 ※場所:キャンパスプラザ京都									

資料4. ビジネスコース・パブリックコースコーディネーター一覧

コース	業種・業界	クラス	受講生数	氏名	大学	所属等
ビジネス	飲食・宿泊	B-1	13	谷本 啓	同志社大学	商学部
	飲食・宿泊	B-2	12	高島 知佐子	京都外国語大学	外国語学部
	飲食・宿泊・卸売・小売	B-3	15	○ 三浦 潔	京都文教大学	総合社会学部
	製造・卸売・小売・販売	B-4	15	天野 勝重	大谷大学	文学部
	製造・卸売・小売・販売	B-5	11	辻上 哲也	龍谷大学	理工学部
	卸売・小売・販売	B-6	15	小山 裕子	京都府立大学	キャリアサポートセンター
	金融・保険・証券	B-7	23	山内 雄気	同志社大学	商学部
	金融・保険・証券	B-8	18	遠藤 敏幸	同志社大学	商学部
	金融・保険・証券	B-9	15	中村 邦義	京都産業大学	法学部
	情報・通信・マスコミ	B-10	13	蒲生 孝治	京都女子大学	現代社会学部
	出版・印刷・広告・サービス業・その他	B-11	15	吉田 咲子	京都光華女子大学	キャリア教育推進室
	情報・通信・マスコミ	B-12	17	岸 基史	同志社大学	経済学部
	出版・印刷・広告・サービス業・その他・教育	B-13	14	◎ 多田 実	同志社大学	政策学部
	医療・福祉・製造・サービス業・その他	B-14	12	原 雄一	京都学園大学	バイオ環境学部
	建設・不動産・製造	B-15	15	佐々木厚司	京都工芸繊維大学	大学院工芸科学研究科
	運輸・流通・サービス業・その他	B-16	15	桜沢 隆哉	京都女子大学	法学部
	士業・サービス業・その他	B-17	10	山田 廣己	京都産業大学	大学院法務研究科
	教育	B-18	13	井上 摩紀	大谷大学	文学部
	サービス業・その他	B-19	14	長沼 健	同志社大学	商学部
	人材ビジネス・教育	B-20	12	中川 洋子	立命館大学	共通教育推進機構
	サービス業・その他	B-21	15	黒田 健二	京都聖母女学院短期大学	生活科学科
パブリック	官公庁	P-1	19	○ 河村 律子	立命館大学	国際関係学部
	官公庁	P-2	14	辻田 祐純	京都府立大学	キャリアサポートセンター
	官公庁	P-3	19	藤木 潤司	龍谷大学	経営学部
	官公庁	P-4	18	坂本 雅則	龍谷大学	経営学部
	非営利組織(NPO・NGO)	P-5	11	李 為	京都産業大学	経営学部
	非営利組織(NPO・NGO)	P-6	10	加藤 敦	同志社女子大学	現代社会学部
	非営利組織(NPO・NGO)	P-7	16	◎ 古川 秀夫	龍谷大学	国際文化学部

◎:総合コーディネーター ○:チーフコーディネーター

資料5. プログレスコース 講義概要(シラバス)

日程	時間	会場	全体の流れ	回数	講義名	講義形式	内容					
プロジェクト実施期間	2013/6/20(木)		オリエンテーション	第1講	オリエンテーション (長期プロジェクト型インターンシップのリスクマネジメント、プロジェクトメンバーの相互理解)	全受講生 合同	プログラムの概要やプログラムに臨む心構え等を説明します。プロジェクトに付かれ、プロジェクトメンバー、受入れ先、コーディネーターの紹介をします。 就業意識の向上、ビジネスマナーの基本、対人関係の中でコミュニケーション能力等について、専門講師を招いて講習します。					
				第2講	コミュニケーショントレーニング							
	2013/6/27(木)		プロジェクトの導入	第3講	企業人ならびに修了生によるプレゼンテーション (プロジェクトの経験談・アドバイス等)							
				第4講	プロジェクト・マネジメント (プロジェクト・マネジメントの概要 -POCMの講義-)							
	2013/7/4(木)		キャンパスプラザ 京都	プロジェクト形成	第5講			プロジェクト・マネジメント (テーマに応じて実習や事業のデザイン①)	各プロジェクト	企業人や修了生によるアドバイスを交え、プロジェクトごとに個別の課題を解決するための講義を行います。 また、プロジェクトの実態に向け、活動計画の発表を行います。 ※内容はプロジェクトの状況に応じて柔軟に変更してまいります。他の木曜日の夜等にも、補講を実施する場合がありますので、予め予定を空けておくようにしてください。		
					第6講			プロジェクト・マネジメント (テーマに応じて実習や事業のデザイン②)				
					第7講			プロジェクト・マネジメント (テーマに応じて実習や事業のデザイン③)				
					第8講			プロジェクト・マネジメント (テーマに応じて実習や事業のデザイン④)				
	2013/7/18(木)				第9講			プロジェクト・マネジメント (今後の活動の確認、活動計画の発表)			全受講生 合同	
					第10講			プロジェクト・マネジメント (他プロジェクトとの意見交換)				
夏休み期間中には、受入れ先ごとにプロジェクトを行います。												
プロジェクト実施期間	2013/10/3(木)		フォロワーアップ	第11講	プロジェクト・マネジメント (プロジェクト中間報告)	全受講生 合同	それぞれのプロジェクトにおける夏期休暇中の進捗状況を報告しあい、今後の成果報告会に向けての準備を行っていただくとともに、プレゼンテーションのポイントや方法等については専門講師よりレクチャーを受けます。 また、プログラム受講を通しての、自己の変化を振り返ります。 ※内容はプロジェクトの状況に応じて柔軟に変更してまいります。他の木曜日の夜等にも、補講を実施する場合がありますので、予め予定を空けておくようにしてください。					
				第12講	プロジェクト・マネジメント (プロジェクト評価方法の概要)							
	2013/10/17(木)		キャンパスプラザ 京都	プロジェクト・報告・評価	第13講			プロジェクト・マネジメント (プレゼンテーション準備①)				
					第14講			プロジェクト・マネジメント (プレゼンテーション準備②)				
	2013/10/31(木)		キャンパスプラザ 京都	プロジェクト・報告・評価	第15講			プロジェクト・マネジメント (プレゼンテーショントレーニング)	全受講生 合同			
					第16講			プロジェクト・マネジメント (自己評価、プログラム受講を通しての自己の変化を振り返る)				
	2013/11/16(土)			プロジェクト・報告・評価	第17講			成果報告会・修了式	全受講生 合同	約6ヶ月にわたるプログラムの総括として、プロジェクトごとに活動報告を行います。全体で、それぞれのプロジェクトの到達点について相互評価を行い、今後の学生生活の目標を明らかにします。また、修了証を授与します。		
					第18講							
					第19講							
					第20講							
懇親会							受入れ先担当者・コーディネーター・受講生による懇親会 ※参加必須					

●プロジェクト毎に補講、または別途ミーティングが実施される場合がありますので、ご注意ください。
 (特に、木曜日は上記日程以外でも実施される場合がありますので、予定を空けるようにしてください。)
 ●学習レポート提出期間: 11月29日(金)10:00~17:00、11月30日(土)10:00~17:00

受入れ先	プロジェクト概要	取組み目的	受講生数	コーディネーター		
特定非営利活動法人 ひらかた市民活動支援センター	市民のパワーを市民活動に生かそう！ひらかた市民活動応援隊 高校生・大学生から社会人まで幅広い年代の市民のパワーの結集として、ひらかた市民活動応援隊を結成します。各団体から応援して欲しいニーズを収集し、メンバー募集、規約の作成から団体への派遣までをシステム化し継続的にメンバーの集まる仕組みづくりを行います。	・メンバー募集から始め、規約の作成から団体への派遣までをシステム化し、継続的にメンバーの集まる仕組みづくりを行う。 ・各団体から応援してほしいニーズを収集し、メンバーの活動の基盤を作る。 ・別の動きとして、専門家(大学の先生、各土業等の専門家)の調査、リストの整理、派遣条件の整理、ニーズの調査を行う。	1	河村 能夫	龍谷大学	
京都サンガF.C.	サンガカレッジ2013 サッカースクールやイベント活動を通じて、より多くの人たちに、スポーツが持つ魅力や価値を伝えていきます。コーチ実習、講義、プロジェクトワークを通じて「マネジメント能力と指導力」を兼ね備えた人材になることを目指します。	京都サンガF.C.(プロクラブ)の活動を知って頂けることで、スポーツがもたらす力を多くの方へ広める事ができる。また、イベントの企画等を通じて新たな発想や考え方をクラブ全体で共有することができる。多くの学生との活動で、新たな人材との出会いの場となること。 プログラムを実施するにあたり、コミュニケーション能力や柔軟な考え方、様々な業種・年代の方と接する事で社会の動きや仕組みを理解しながら対応していく力を身につけること。 プログラムを通じて社会の流れや仕組みを理解し、プロクラブでの考えやこれからの生活に経験を活かしてもらうこと。 京都サンガファミリーの拡大。	6	久保 和之	龍谷大学	社会学部
特定非営利活動法人 子ども自立の郷 ウォームアップスクールここから	地域と不登校の子どもを巻き込んだ、『夏の終わりの光の茶碗祭り2013』の企画運営を自分たちの力で、やってみよう！！ 2012年度のインターン生が立ち上げた『夏の終わりの光の茶碗祭り』が、地域の夏の行事として定着するように企画・運営をします。この活動を通して、不登校の子どもたちの成長に一助を与えてやってください！	宿泊を通した深いかかわりの中で、働くことの大変さ、面白さ、意味を感じ、これからの自分の進路に生かすことができる。 普段関わることのない年齢層の方々とのふれあいや、地域とのつながりを体感することで新たな感背を養い、今後の人間関係のスキルが大幅に身についていく。 寄宿制の自立支援施設「ここから」の実態をみることで、様々な職種の仕事があることや、現代の社会問題にもなっている「不登校・ひきこもり」の児童生徒に対する教育事情にかかわることができる。 指導員と同じ仕事をすることで、支援や指導するもの、仕事をする者としての自分の在り方が問われ、これまでの生き方や自分を見つめなおす、よいきっかけとなる。	1	申 昌浩	京都精華大学	人文学部
京都府教育委員会	教員養成サポートセミナー 教員を目指す大学生が、学校現場での演習を通して理論と実践を結びつけ、実践的指導力を身に付けていくことを目指します。	大学生のうちから学校現場で教員の仕事に関する経験を積むことにより、将来の教育を担う若手として活躍できる人材の育成に資する。 ・目的意識・意欲の高まり ・教員としての自身の課題の明確化 ・学校現場における様々な場面を経験するとともに、その都度、指導教員と振り返り学習を行うことにより、実践に基づいた指導力が向上 教員を目指す学生の実践的指導力の向上をねらいとしている。また、学生を受け入れ指導することは、学校の活性化にも寄与するものと考えている。	25	谷口 知弘	同志社大学	
株式会社ナスカ	サイト運営マネージメント ユーザー参加型投稿サイト上でイベントの企画・運営を実施。企画・制作・集客・運営といった一貫の流れの中で、マーケティング戦略の構築、ビジネスモデルの設計を主体的に進めていきます。	WEBツールを利用した集客方法や、ユーザー目線だけでなく運営者目線でイベントの流れを体験することができます。そういった流れの中で今、社会人に最も重要視されている社会人基礎力、「状況把握力」「課題発見力」「創造性」の概念を知り、他の誰でもない自分自身の「考え抜く力」を一緒に育んでいきたいと思っています。	2	○ 舟橋 和夫	龍谷大学	社会学部
コンセプトグラマー有限会社	京都朝げいこ 出勤前の朝時間を活用した新しいタイプの朝活講座で、講座の企画立案・運営・プロモーションを行います。講師の選定やスケジュール調整、講座の予約受付に会場設営など、チームプレーを体感できるプロジェクトです。	学生の中に学外での社会勉強することは非常に善い事だと自分の経験を通じて実感しています。 広報PR、プロモーション、また企画職に関わる仕事に興味のある方、教育(スクール事業)関連業界を希望される学生に向いています。とてもいい経験になるかと思えます。 事業の立ち上げなど、独立嗜好のある方には、事業構築の流れの一部を経験できます。 PR会社で行う事業なので、一般企業でも行われる広報PR業務の基本を知ることができます。 公式サイト構築運営を社内で行っておりますので、クリエイティブ嗜好の方にもお手伝い頂く業務があります。	2	◎ 山本 建太郎	京都工芸繊維大学	大学院工芸科学研究科
株式会社 インテリジェンスオフィス	ヒトナビ・インターンシップ 京都ヒトナビカフェでの活動を通して、「働く」ということを学び、フリーペーパーの発行に携わります。全社をあげてインターン生をバックアップします。	大学生を受け入れることにより、職場を活性化させることが出来ます。 また、アルバイト・社員採用いずれにも深く関わってくる「大学生」の生の声を社内で聞くことが出来る意味も、大変大きいと考えています。 また、インターンを通じて優秀な学生に弊社の理念や大事にしていることを知ってもらうことを通じて、就職活動や進路など学生の将来に活かしてもらう機会を作ることにもつながりたいと考えています。	8	○ 渡邊 博己	京都学園大学	法学部

◎:総合コーディネーター ○:チーフコーディネーター

資料7. エントリー企業・団体一覧

ビジネスコース

■建設・不動産

株式会社アーキエムズ
株式会社学生ハウジング
京都駅ビル開発株式会社
株式会社ジェイ・エス・ビー
有限会社一級建築士事務所 ターボ設計
株式会社ダン計画研究所
株式会社長栄
株式会社フラットエージェンシー
株式会社類設計室
株式会社ローバー都市建築事務所

■製造

株式会社石田老舗
株式会社加貫ローラ製作所
株式会社川勝總本家
有限会社共同設計企画
キンシ正宗株式会社
月桂冠株式会社
住友精密工業株式会社
中沼アートスクリーン株式会社
日華化学株式会社
日新電機株式会社
日東精工株式会社
日本新薬株式会社
株式会社堀場製作所
マルホ発條工業株式会社
株式会社壬生電機製作所
ムラタ

■情報・通信・マスコミ

アートム株式会社
株式会社おいかぜ
株式会社キイストン
株式会社教育ソフトウェア
株式会社京都放送
協和テクノロジズ株式会社
株式会社ジェイコムウエスト 高槻局
株式会社SIGEL
株式会社総合システムサービス
株式会社DNPデジタルコム
東映株式会社 関西支社
東映株式会社 京都撮影所
バルトソフトウェア株式会社
株式会社表現
株式会社フロムページ
三谷商事株式会社

■運輸・流通

株式会社エルムンドトラベル
株式会社サカイ引越センター
株式会社JTB西日本
株式会社塚腰運送

■卸売・小売・販売

株式会社老松
株式会社くろちく倭美坐
株式会社鼓月
株式会社佐野
三共精機株式会社
株式会社ジェイアール西日本伊勢丹
秀和株式会社
株式会社ジュンク堂書店 京都店
株式会社聖護院ハッ橋総本店
生活協同組合コープこうべ
ダイイチ株式会社
つるやゴルフ
TMC JAPAN AUTO INC.
株式会社富田屋
株式会社西利
株式会社花工房
パナソニックシステムネットワークス株式会社
関西社
株式会社ヒトミ
富士ゼロックス京都株式会社
株式会社ミル総本社
八洲薬品株式会社
株式会社やまざき

■金融・保険・証券

株式会社葵総合保険
株式会社エスアールエム
SMBC日興証券株式会社
株式会社京都銀行
京都信用金庫
京都中央信用金庫
株式会社滋賀銀行
全労済中日本事業本部
西村証券株式会社
野村證券株式会社 京都支店
三井住友海上火災保険株式会社

■飲食・宿泊

ウェスティンホテル大阪
ウェスティン都ホテル京都
株式会社プリンスホテル
大津プリンスホテル
株式会社京都センチュリーホテル
京都タワー株式会社
京都ブライTONホテル株式会社
株式会社プリンスホテル
グランドプリンスホテル京都
株式会社グルメ軒屋
里湯昔話 雄山荘
ハイアット リージェンシー京都
株式会社琵琶湖ホテル
藤田ホテルマネジメント株式会社
京都国際ホテル
株式会社ホテルグランヴィア大阪
株式会社ロイヤルホテル
リーガロイヤルホテル京都
株式会社ロイヤルホテル
(リーガロイヤルホテルグループ)

■医療・福祉

医療法人財団康生会武田病院
社会福祉法人行風会
医療法人社団千春会
洛和会ヘルスケアシステム

■教育

大谷大学
株式会社キャリア総研
京都外国語大学 京都外国語短期大学
京都学園大学
京都華頂大学・華頂短期大学
京都工芸繊維大学
京都産業大学
学校法人京都産業大学 すみれ幼稚園
京都女子大学
京都大学
京都ノートルダム女子大学
京都文教大学
京都薬科大学
公益財団法人 大学コンソーシアム京都
学校法人大和学園
同志社女子大学
同志社大学
佛教大学
立命館大学
龍谷大学

■士業

司法書士法人 F&Partners
大阪労士事務所
特許業務法人京都国際特許事務所
中央ビジネスグループ
中村利雄法律事務所
株式会社みやこ不動産鑑定所

■出版・印刷・広告

株式会社あおぞら印刷
株式会社エトレコミュニケーションズ
株式会社エフアイシー
株式会社関広
株式会社京都通信社
有限会社くらむぼん出版
株式会社島津アドコム
株式会社ディライツ広告事務所
株式会社図書印刷同朋舎
株式会社ビードリーム
株式会社貿易広告社 大阪支社
株式会社リーフ・パブリケーションズ

■人材ビジネス

学生情報センターグループ
株式会社ナジック・アイ・サポート
株式会社キャリアパワー

ビジネスコース

■サービス業・その他

株式会社アイアム・ダスキンフクエ
嵐山通船株式会社
株式会社エイジェイクリエーション
大阪企業家ミュージアム
(大阪商工会議所)
オーパルオプテックス株式会社
かみなか農楽舎
キノビクス株式会社 京都営業所
株式会社京都映画センター
京都エレベータ株式会社
京都商工会議所
京都精華大学
京都国際マンガミュージアム
京都生活協同組合
株式会社京都メディカルクラブ
霧の森
近建ビル管理株式会社
近鉄レジャーサービス株式会社
(志摩スペイン村)
草津商工会議所
株式会社くろちく
サンスイコンサルタント株式会社
しあわせ総合研究所グループ
株式会社ジイケイ京都
株式会社高浄
高見株式会社(TAKAMI BRIDAL)
株式会社地域社会研究所
株式会社地域未来研究所
株式会社テスバック
西陣織会館
株式会社日建設計
株式会社日本女子プロ野球機構
株式会社乃村工藝社
株式会社ビーイング
非営利株式会社 PTA
株式会社 Hibana
公益財団法人びわ湖ホール
株式会社マザーネット
有限会社丸益西村屋
株式会社三菱総合研究所
ワタベウェディング株式会社

パブリックコース

■官公庁

芦屋市
綾部市役所
宇治市役所
近江八幡市
亀岡市役所
京田辺市役所
京都国立近代美術館
京都市役所
京都府庁
京都府立るり溪少年自然の家
近畿経済産業局
草津市役所

滋賀県庁
摂津市
豊中市伊丹市クリーンランド
長岡京市役所
南丹市教育委員会
東近江市役所
彦根市
福知山市役所
宮津市役所
向日市役所
守山市役所
野洲市役所
八幡市役所
栗東市役所

■非営利組織<NPO・NGO>

あそあそ自然学校
特定非営利活動法人
アントレプレナーシップ開発センター
大阪高齢者生活協同組合
一般財団法人
大阪市男女共同参画のまち創生協会
大阪市立総合生涯学習センター
一般財団法人
大阪府男女共同参画推進財団
特定非営利活動法人
関西国際交流団体協議会
特定非営利活動法人気候ネットワーク
NPO法人木野環境
特定非営利活動法人京都子どもセンター
公益財団法人京都市国際交流協会
京都市野外活動施設 花背山の家
公益財団法人京都市ユースサービス協会
財団法人京都ゼミナールハウス
京都府地球温暖化防止活動推進センター
一般財団法人京都ユースホステル協会
公益財団法人
公害地域再生センター(あおぞら財団)
特定非営利活動法人子ども自立の郷
ウォームアップスクールここから
特定非営利活動法人
生活環境づくり21・NPOフォーラム
多文化共生センターひょうご
特定非営利活動法人チャイルドライン京都
特定非営利活動法人伝統みらい
特定非営利活動法人
とよなか市民環境会議アジェンダ 21
公益社団法人長浜観光協会
NPO法人のあつく自然学校 大阪校
NPO法人ピープルアクティブライフ
特定非営利活動法人
ひらかた市民活動支援センター
一般社団法人比良里山クラブ
特定非営利活動法人びわこ豊穰の郷
特定非営利活動法人まんぼう
京エコロジーセンター
(京都市環境保全活動センター)
特定非営利活動法人結芽

プログレスコース

株式会社インテリジェンスオフィス
一般財団法人
大阪府男女共同参画推進財団
特定非営利活動法人気候ネットワーク
京都サンガF.C.
京都府教育委員会
特定非営利活動法人子ども自立の郷
ウォームアップスクールここから
コンセプトグラマー有限公司
公益財団法人 大学コンソーシアム京都
株式会社ナスカ
特定非営利活動法人
ひらかた市民活動支援センター
株式会社ユメコム

資料8. インターンシップ研究会

1) 構成員一覧

役職	氏名	所属
委員長	古川 秀夫	龍谷大学 国際文化学部 教授
副委員長	多田 実	同志社大学 政策学部 教授
委員	三浦 潔	京都文教大学 総合社会学部 教授
	河村 律子	立命館大学 国際関係学部 准教授
	山本 建太郎	京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究科 教授
	舟橋 和夫	龍谷大学 社会学部 教授
	渡邊 博己	京都学園大学 法学部 教授
	筑田 一毅	大谷大学・大谷大学短期大学部 学生支援部キャリアセンター
	広瀬 友子	京都学園大学 キャリアサポートセンター 課長代理
	久保 歩	立命館大学 共通教育課 インターンシップオフィス
	森野 裕之	京都文教大学 学生部キャリアサポート課 係長

2) 開催内容

回数	実施日	審議事項
第1回	6月21日(金)	・2013年度インターンシップ実施計画について ・加盟大学におけるインターンシップ科目としての単位認定に関わる制度について
第2回	11月15日(金)	・2014年度シラバスについて ・インターンシップ・プログラム「修了生」の基準について
第3回	12月20日(金)	・2014年度シラバスについて ・インターンシップ・プログラム成績基準について ・2013年度の実施状況について
第4回	2月28日(金)	・2014年度インターンシップ実施計画について ・受入れ先企業・団体訪問の報告 ・加盟大学におけるインターンシップ科目としての単位認定に関わる制度について

資料9. 大学コンソーシアム京都加盟大学一覧 (2014.3.1現在)

京都大学	京都光華女子大学短期大学部	成安造形大学
京都教育大学	京都嵯峨芸術大学	成美大学
京都工芸繊維大学	京都嵯峨芸術大学短期大学部	成美大学短期大学部
京都市立芸術大学	京都産業大学	同志社大学
京都府立大学	京都女子大学	同志社女子大学
京都府立医科大学	京都女子大学短期大学部	花園大学
池坊短期大学	京都精華大学	佛教大学
大谷大学	京都西山短期大学	平安女学院大学
大谷大学短期大学部	京都聖母女学院短期大学	平安女学院大学短期大学部
華頂短期大学	京都造形芸術大学	明治国際医療大学
京都医療科学大学	京都橘大学	立命館大学
京都外国語大学	京都ノートルダム女子大学	龍谷大学
京都外国語短期大学	京都美術工芸大学	龍谷大学短期大学部
京都学園大学	京都文教大学	大阪成蹊大学芸術学部
京都華頂大学	京都文教短期大学	大阪医科大学
京都経済短期大学	京都薬科大学	放送大学京都学習センター
京都光華女子大学	種智院大学	



公益
財団
法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都

TEL:(075)353-9106 FAX(075)353-9121

<http://www.consortium.or.jp>